

讚 樹 會



平成 16 年 5 月 23 日 第 3 回関西支部会

香川大学医学部医学科同窓会報

目 次

1 就任挨拶 会長 高橋 則尋先生..... 1	科長・研修医・同窓会による三者懇親会 開催報告 安岐 康晴先生.....36
2 理事長 安岐 康晴先生..... 2	参加研修医感想
学術委員長 西山 成先生..... 3	吉本 卓生先生、森 奈都美先生.....38
3 退官挨拶 根木 哲郎先生..... 5	12 特集 2：教授の横顔シリーズ 3
4 転任挨拶	神経機能形態学 竹内 義喜先生.....40
岐阜大学医学部附属病院高次救急治療センター	形成外科学 井川 浩晴先生.....43
小倉 真治先生..... 6	腫瘍病理学 今井田克己先生.....45
5 総会 第 8 回定例総会開催報告..... 8	13 国外留学助成金公募及び選考結果報告48
総会議事録..... 9	14 エアメール短信 平成 8 年 浅井 竜彦先生 49
学長記念講演.....13	15 開業医だより 昭和 61 年 沼原 利彦先生 52
6 発表！讚樹會ロゴマーク決定.....19	16 卒業生近況報告 平成元年 伊東 達夫先生 54
7 平成 16・17 年度 役員・学年理事一覧19	平成 2 年 鈴木 英一先生...56
8 第 3 回関西支部会	17 クラブ紹介
支部会報告 昭和 62 年卒 谷向 茂厚先生 21	ラグビー部 5 年 鈴山 寛人.....62
一言メッセージ.....24	三保診療班 3 年 酒井 亮太.....63
9 関東支部会開催のお知らせ.....28	18 大学ニュース
10 理事会議事録 平成 15 年度第 6 回29	新制キャンパスライフ.....66
平成 16 年度第 1 回31	医師国家試験結果.....68
11 特集 1：新研修制度スタートにあたって	19 事務局からのお知らせ70
研修センター長 石田 俊彦先生.....34	20 編集後記71

会長就任挨拶

会長 高橋 則 尋

(昭和六十一年卒)



この度、私は先日行われました第八回香川大学医学部医学科同窓会総会において会長再選を信任されましたので、会長職として三期目の二年間を全うしたいと思っております。同時に、皆様の推薦により理事会のメンバーも一新され、五月十七日、第一回の理事会が開催されました。その席上で新しく副会長には関啓輔先生、理事長に安岐康晴先生（財務委員長兼務）、編集委員長に大森浩二先生、学術委員長に西山成先生、調査委員長に宮部和徳先生に就任して頂きました。新しい理事のメンバーとともに同窓会活動を担うべく、理事会運営を行ってまいります。

まず、二期四年間を振り返ってみますと、通常の年間事業の遂行のほかに、開校二十周年記念事業に同窓会としても参画し、資金的にも援助しました。また、一時期、学生への夜間襲撃事件がありました。微力ではありますが、大学執行部へ意見書を提出し、夜間の校門閉鎖を実現しました。微力ではありますが、大学運営に同窓会として影響を及ぼすことができましたのも、日ごろの会員の皆様の援助の賜物であると感謝いたしております。

さて、われわれの母校は本年度より香川大学として、また独立行政法人として新しく生まれ変わりました。私も、同窓生としてその歩みを暖かく、期待をこめて見守ってまいりたいと思っております。さらに、必要であれば助言も行いたいと思っております。例えば、本年度より必須化された新臨床研修制度に対して同窓会としても色々なサポートをしていきたいと考えております。何故ならこの制度の成功が香川大学医学部、ひいては香川大学の発展に深く関係するといっても過言ではないからです。その第一歩として先日、安岐理事長の発案でわれわれ同窓会の代表と医学部教授、平成十五年卒の研修医を交えて懇談会を持ちました。そこでは教授から自身の研修医時代の体験を踏まえた貴重な意見を頂き、また、研修医からは実体験に基づいた要望が出されました。これらの意見は全て、新しい制度が成功するように有意義に活かされるものと確信しています。また、従来から同窓生の活動援助の一環として海外留学助成をしましたが、新しい試みとして国内における研究活動なども援助するような制度について西山学術委員長を中心に検討しています。今後、概要が固まり次第、追ってご報告申し上げます。さらに、前編集委員長の清元秀泰先生が尽力された編集活動についても大森編集委員長に事業を継承しながら、新しいアイデアも加えて頂くようお願いしております。支部総会の開催も関東支部会、関西支部会など順調に開催され、それぞれ支部の同窓会員の交流に役立っております。

これからも同窓生および在校生を支援すべく、同窓会活動を行っていく所存ですので、会員皆様のますますのご協力をよろしくお願い致します。

理事長就任挨拶

理事長 安 岐 康 晴

(平成三年大学院修了)



この度、香川大学医学部医学科同窓会讃樹會理事長に就任させていただくことになりました。私は昭和六十二年に大分医科大学(当時)を卒業して直ちに香川医科大学大学院医学研究科(当時)に入学しました。当初は母校に残ることも考えたのですが、先のことを考え、いずれ親の面倒をみなければならぬと思い(面倒をみるどころか、いまだに逆に面倒をみてもらっておりますが…)卒業と同時に大分を去ることにしました。それ以来母校との交流はほとんどなく、一度だけ同期会に出席しました。私の心の中で母校の存在は消えてしまいました。香川医科大学については、何の情報もないまま帰ってくることもなくなり、最初慣れるまでは人間関係など困惑したこともありましたが、良き師、先輩、同僚、後輩にも恵まれて気がつけば十七年が経過していました。関連病院の常勤医となっていた一年間以外はずっと大学で働いてはおりましたが、それほど自分の出た大学(正確には大学院なのですが)という気持ちではありませんでした。そんなある日、私のような者に濱本名誉会長や高橋会長たちが優しく声をかけていただき、学年理事にいただいた上に、この度は大役を仰せつかることとなり、大変光栄であるとともに重責に對し気を引き締めているとございます。今までに同窓会というと、小学校や中学校時代の級友が集まって宴会をや

るというイメージしかなかったものですから、最初理事にしていたたいた時は正直お客様状態でしたが、去年より財務委員長として活動に関わらせていただき、やってみると意外とおもしろく、また私のような者でも会に貢献できることがわかり、だんだんとやる気が出て参りました。

さて、香川大学医学部は去年から大学の合併、独立法人化という二つの大きなイベントを経て現在大きな過渡期を迎えております。また今年度から新しい研修制度も開始となり、大学医学部あるいは附属病院として、これから生き残りをかけた大変厳しい時代がやってくることは、容易に想像がつくところであります。われわれ同窓会の執行部としても会の方向をできるだけ正しい方向に導いていかねばならないと考えております。そのためには、まずは実現可能なところから地に足のついた地道な努力が必要だと思えます。それを遂行するためにどうしなければいけないのか、自分なりに考えてみると次の様なことがまとまりました。会員の皆様のさらなる積極的な参加を促すこと、他大学の同窓会と交流、意見交換を行うこと、そして、同窓会会員から大学の首脳陣(具体的には教授)へ人材を送り込むことです。もちろんそれ以外にも重要なことはあるかと思えますが、まずはこの三つを実行していたらと考えております。のために今年度から始めたこととしては、まず五月二十七日に第一回目が行われた科長・研修医・同窓会三者懇親会があります。これについては別項で詳しく報告致しておりますが、ふだんなかなか聞くことのできない他科の科長の貴重な御意見を拝聴できて大変有意義だったと考えております。これからも恒例として二回目、三回目と継続できますことを願っております。また学術協賛費を今年度より大幅に引き上げることが理事会決議致しました。これによって従来国外留学者に限定し



ていた研究のための補助金を国内で研究している方にも支給していく方向で、現在詳細について学術委員長である西山先生を中心に検討しているところであります。また、についてはまずは同じ年に設立された大学医学部の執行部の方々と連絡をとっていく所から始めようとしております。他大学の状況を聞くことでよりよい同窓会活動の指針となると考えております。についてはわれわれの力だけではまったくどうにもなりません、同窓会会員の中で教授にふさわしい優秀な方についての積極的な啓蒙活動ができればと考えております。とにかくこの二年間会員の皆様のためになるように自分のできることを最大限がんばっていこうと考えております。そのためには各学年理事や会員の皆様の後押しが不可欠でございます。何卒、御支援御協力賜りますようお願い申し上げます。就任の御挨拶と代えさせていただきます。よろしくお願致します。

学術委員長就任挨拶

学術委員長 西山 成

(平成五年卒)

讃樹會会員の皆様方におかれましては、益々御清栄のことと存じ上げます。この度、理事会より要請・承認を受け、学術委員長を勤めさせて頂く事になりました。八期生の西山 成です。これまでに学年理事の経験すらない私のような若輩者が木村前学術委員長の代役を果たすこと

ができるかどうか不安ですが、精一杯学術関連の責務を果たして行く所存ですので、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

私事で恐縮ですが、現在私は薬理学教室にて主に研究に従事しております。ここ数年来、世界はグローバル化の真只中にあり、今までの様々な価値観や常識が根柢から塗り替えられつつあります。研究の分野も例外ではなく、そのような流れにしばしば直面しています。これまでは小さな教室の方針に沿って漫然と実験を進めていけばよかったものの、情報の自由化やポータル化の中でめまぐるしく変化する状況に対応し、自分自身の研究の生かし方を見極める能力が必要とされるようになってきました。私個人としましては、むしろこのような時代の流れを一つのチャンスとして捉えるような発想の転換が必要であると考えております。実際に、大学や大企業のネームバリューよりも個々の実力が正当に評価されるような時代に徐々になってきたてきております。私は、このような今の時代で勝ち残っていくためには、個人があるいは組織としてはつきりとしたビジョンを持って行動する必要があると感じております。我が大学で教育を受けた者のそれぞれが様々な分野で活躍するようになり、それが社会への奉仕につながったあかつきには、きっと大学自体の評価も上がるはずであるという信念(ビジョン)のもとに指導を行っている次第であります。一方で、日本の大学制度や医療制度も例外ではなく猛烈な勢いで大きく様変わりしてきました。このような状況下で大学全体のビジョンは我々にはなかなか伝わってきにくいですが、讃樹會は同窓生の活動をサポートし、ひいては社会へ奉仕するという明確なビジョンに基づいて設立されていると考えております。学術委員会としまして、同窓生の研究活動をサポートす

る目的で本年度より年間数百万円の予算を計上して頂けることになりました。また、大学で行われる医科学談話会にも積極的に資金援助を行っていく予定であります。活動の規模も金額的な面でもまだまだ十分とは言いがたいですが、少しでも皆様方の研究活動にお役に立ち、ひいては医学やサイエンスの進歩といった社会への還元につながる事を願っている次第であります。詳細は秋頃より讃樹會ホームページにて公開し、公募を開始する予定ですので、数多くのご応募をお待ち申しております。

讃樹會はスタートしたばかりの若い組織ですし、私自身も若輩者ですので、どうすれば我々の活動が皆様にそして社会に貢献して行けるのかを模索しているような状況であります。まだまだ至らぬ点が多々あることと存じますが、皆様方の御意見や御指摘を基にしてよりよい活動を目指して執行部メンバー共々これまで以上に努力を惜しまない所存でありますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

人生は塞翁が馬の如し

香川大学 名誉教授 根木 哲郎



昭和五十五年四月一日より教授として阪大から希望と不安を持ちながら第一期の教官に、妻・長女・長男と一緒に赴任してまいりました。まさか自分が医科大の教授として御役に立つかどうか大変疑問に感じていましたから。阪大在職中にスキー事故で左足の脛骨を骨折し、実習活動が出来ない時がありました。このピンチに意を決し、阪大医学部・法医学教室に四ヶ月間勉強に行ったことがあり、そこで学んだ事が香川医大に役に立つとは思いませんでした。献体第一番の脳摘出を島田教授現・大阪医大(学長)、出石技官、私と三人で行いましたが、あまりにも、僕の手際が良いので驚いて目を見張った様子を今でもはっきりと思い起こすことが出来ません。ピンチはチャンスです”

又、助教の頃、阪大高次研究生理学教室で電気生理の勉強をして居た折に、香川医大の話があり、その途中で赴任して来ました。生物学教室の村上教授と、マウスを用いた楽しい共同研究をしていた時、電気生理の技術手法が見事に役立ち、我ながら驚嘆したものです。香川医大時代の論文の大半はその技術の御蔭だと考えて居る次第です。

“ 芸は身を助ける ”

我々の研究グループはd d N系のマウスを近交交配をし、実験動物用に自家飼育をしています。時々、顔面が扁平な異状マウスが出現しておりました。ある時、ノーマルなマウスをどうしても実験に供することが出来ず、やむをえず、扁平マウスを使用したところ、そのマウスが完全な先天的脳梁欠損マウスで、大発見につながり、幾多の論文は高い評価を受けたものです。

香川医大の第一期の教授連はとても仲間意識が強く、統制と協力は見事なものでした。事務方達とも家族ぐるみで、よく遊び、コンパ・ハイキング・魚取りなど楽しい思い出が一杯です。中でも底引船で瀬戸内海をトロールした時、目的の魚はまったく取れずフグばかり多く捕れたことです。仕方がないので船上でフグ鍋をすることにになり、村上教授が率先して料理番を買って出たものです。(フグ料理の免許なし)。仲間達はその美味に言葉なく、ぱくついたものです。だがしかし、村上先生は一向に箸を取ろうとはしないのです。やおら、腕時計をながめ、一言、二十分経過した、もう大丈夫だろうと言って食べ始められました。村上先生はそうとう頃からこの件で船内は大爆笑となりました。村上先生はそうとう僕の耳にささやくのです。このフグはナゴヤフグで無毒なんだと！

“ 急がば回れ ”

最後になりますが、平成十六年四月一日より香川医大が香川大学医学部に変身しました。前途多難のことでしょうが、総合大学の一学部として、今まで以上に一致団結を心がけ、努力して下さる事を心より祈っております。

転任挨拶

岐阜大学医学部大学院医療管理学講座 救急・災害医学分野

教授 小倉 真 治

oguras@cc.gifu-u.ac.jp

香川大学医学部同窓生の皆様、お元気ですか？

本日は同窓会報の紙面をお借りして転任のご挨拶をさせていただきます。例えば昭和六十年に岐阜大学を卒業後、すぐに飛び込んだのが香川医科大学小栗講座（麻酔・救急医学講座）でした。十八年間同窓会の〇期生として香川医大の発展をつぶさに観察させて頂き、平成十三年に救命救急センターの立ち上げを見届けました。さらにそれを発展させたいと思っていたのですが、岐阜の救急は遅れている、何とかしてくれとかねがね後輩達から言われ続けていたところへ岐阜大学に新しい救急・災害医学講座が立ち上がると言うことで断りきれずに香川を去ることになりました。申し訳ない気持ちでいっぱいです。

岐阜大学の救急・災害医学分野についてですが、二つの目標があります。一つは高度な救急医療を展開し、救急専門医を養成することであり、二つ目は災害時に対応できる医師を養成することにあります。

一番目の高度な救急医療ですが、岐阜大学では高次救命治療センターが平成十六年六月の新病院開院にあわせて開設されました。センター長には私が選ばれたのですが、旧来の救急部、集中治療部、手術部、人工腎室を一箇所に集中させて病院内外の急性期重症患者の治療を集中治療する病院の中央部門です。特に外傷、心疾患、

脳血管障害には力を入れ、ICU、HCU、CCUを使って（あわせて二十六床）治療を行います。その治療に当たるのは高度な救命救急を行なえるチームです。各チームに核となる救急専門医を配置し、全員専従医で救急集中医療を行っています。専従医師が研修医以外に二十七名あります。夜勤体制を取りながら、チーム単位で救急患者に対応しつつ研修医教育を行うわけです。可能な限り早い時期に救急指導医指定施設の指定を受け、ちなみに中部地方には一施設も指定施設はありません。救急指導医を再生産して、県内外の救急医療機関に配置させて頂きたいとも考えております。新病院屋上には、ICUへのエレベータを有するヘリポートも保有しており、当面県防災ヘリを利用してドクターヘリの運用を行っています。ちなみに六月に六回のドクターヘリ出動がありました。このような体制、施設ですから岐阜県どこから東海北陸地方随一の救急部門であり、厳しいハードルとされる高度救命救急センターのハードルも越えうると考えております。

二番目の災害医療ですが、災害医療対応ができるスタッフの育成





教育の場として、また、災害医療センター等への専門領域医師派遣など支援施設としての役割が期待されています。もちろん学生への講義、卒後臨床研修の中で災害医療(すなわち、限られた医療資源の中でどのように最も有効な医療を行うか)のトレーニングを行うにつつ来たるべき東海地震の時に対応できるような救急医も育てたいと考えております。

以上、今後とも香川大学救命救急センターと人事交流を含めて友好的にすすんでいきたいと思っておりますのでなにとぞよろしくお願い申し上げます。

総会開催報告

第8回定例総会・記念講演会開催

平成十六年四月十一日(日) 十五:〇〇～十六:〇〇に第八回讃樹會定例総会が予定通り開催されました。

当日までに全国から届いた会員のみなさんの委任状と合わせた三二四名の出席をもって、総会は無事成立となりました。会場からの承認を得て関啓輔先生(昭和六十二年卒)の司会進行により、まず平成十四年に教授就任された武田則昭先生と鎌野寛先生に対



司会の関啓輔理事長

し同窓会から祝賀の記念品が贈呈されたことが報告され、続いて本年四月には平川栄一郎先生が香川県立保健医療大学臨床検査学科教授に就任されたことが最新のニュースとして紹介され、会場は参加者全員からのお祝いの拍手で包まれました。

次に議事の審議に移り、平成十四年・十五年度事業報告が関議長によって行われた後、決算および監査報告が安岐康晴前年度財務委員長より報告され、満場一致の承認を得ました。

引き続き行われた会長選挙では、選挙管理委員長の乾先生の代理の大森浩二先生の立会いのもとに、総会までに届いた郵便投票と出席者の信任投票の開封・集計がその場で実施された結果、高橋

則尋会長が再選されました。

三期目の就任となる高橋則尋会長による所信表明の後、平成十六、十七年度の事業計画並びに予算案が審議され、満場一致で承認を得ました。

その他の審議も滞りなく進み、およそ一時間弱で無事に総会が終了しました。

十六:〇〇から記念講演会が開催され、講師には香川大学長の木村好次先生においていただきました。「法人化と香川大学」という演題で、香川大学と香川医科大学の統合を経て、更には本年四月から法人化という新体制に対応していく大学の現状を非常に明快に、時にユーモアをまじえて語っていただきました。随所で国の政策や海外の前例なども説明いただきながら、経緯や現状を知ること、未来への指針をもつことを学べた貴重な講演会となりました。講演後の参加者アンケートに、圧倒的に「非常にわかりやすかった」という回答が多かったのが印象的でした。

参加者の代表として五年生の小倉可奈子さんから花束贈呈がおこなわれ、予想されていた木村学長が驚かれるという一幕もあり、盛大な拍手とともに記念講演会は幕を閉じました。懇親会が希望参加者により「さざなみ亭」で十八:〇〇から開催されました。



学長記念講演が終了し、花束贈呈

第8回総会議事録

開催日時 平成十六年四月十一日(日) 十五:〇〇～十六:〇〇

於 香川大学医学部臨床講義棟一階

1 開会宣言(高橋会長)

・総会の成立

出席者と委任状提出者を合わせて三三四名となり、正会員の
一〇分の一以上の出席とみなされ総会が成立した。

2 議長選出

立候補なく、満場一致で関啓輔先生(昭和六十二年卒)が選出
された。

3 教授就任祝賀の報告

関啓輔議長より以下のように報告された。

・平成十四年四月一日付で武田則昭先生(平成三年卒)が川崎
医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科教授に就任され、
記念品を贈呈した。

・平成十四年十月一日付で鎌野寛先生(昭和六十一年卒)が香
川大学保健管理センター教授に就任され、記念品を贈呈し
た。

・平成十六年四月一日付で平川栄一郎先生(昭和六十一年卒)
が香川県立保健医療大学臨床検査学科教授に就任された。
早速、記念品を贈呈する予定である。

4 平成十四、十五年度事業報告

関啓輔議長より以下のように報告された。

名簿発刊

平成十五年一月、平成十六年三月発刊

会報発刊

平成十四年八月、平成十五年一月、平成十五年九月、平成
十六年二月の計四号を発刊した。

国外留学助成事業

平成十四年度分 岡野圭一(平成四年卒)、森泰胤(昭和
六十三年卒)、中村文洋(平成七年卒)、浅井竜彦(平成八
年卒)

平成十五年度分 野間貴久(平成八年卒)、人見浩史(平
成八年卒)

同窓会学術委員会の審査選考に基づき、理事会の決定に
より以上六名に国外留学助成金が交付された。後日、報
告書を提出していただき、紙上公開する予定である。

5 平成十四、十五年度決算報告および監査報告

安岐財務委員長より決算報告が行われ、承認を得た。

6 会長選挙

大森浩二先生(昭和六十一年卒)を選挙管理委員長代理として、
総会出席者立会いのもと行われた。

立候補が高橋則尋会長(昭和六十一年卒)のみであるため、信
任投票が実施された。

総会開催宣言までに届いた郵便投票に、総会出席者の投票を
加えて投票総数三三四票の内、三三三票が信任票、一票が不信任

票という結果となり、高橋則尋会長の再選が決定した。開票に際して特にトラブルもなく、異議申し立てもなかった。

7 会長所信表明

今回の選挙で会長に再選された高橋則尋会長による所信表明が行われた。

8 平成十六、十七年度事業計画並びに予算案承認の件

会長より事業計画の説明。承認を求める。

名簿・会報発刊事業

支部会設立

学術および協賛事業

平成十六、十七年度予算案

9 同窓会ロゴマークの選考

応募総数十八点の中から上位三点を選び投票が行われ、後日、理事会で最終決定することとなった。

10 会則の変更の承認

大学の統合、大学名の変更にともない、同窓会名の変更を会則に反映する。

第2章第5条2 特別会員「現医学部教官（学長、副学長、教授、助教授）（但し、正会員を除く。）」を以下の通りに改正する。

「現教官（学長、副学長、医学部長、病院長、医学部医学科教授、医学部医学科助教授）（但し、正会員は除く。）」

第3章第8条6 監査員、2名 正会員の中から選出し、総会で承認する。「を以下の通りに改正する。」

1名 正会員の中から選出し、総会で承認する。別に顧問公認会計士に監査を委託する。

会費規定 第2条 正会員の会費 以下の条項を追加する。

2 年会費を二十年分に相当する額を納入することをもって終生会員とする。

4 準会員資格取得時に会費を完全納入済の場合、正会員資格取得の際の入会金は免除とする。

11 名誉会員推薦の件

田邊正忠前学長、高岩堯前病院長、高原二郎前副学長の三名が名誉会員に推薦され、満場一致で承認された。

12 その他

・ 次年度副会長に関啓輔先生が選出され、満場一致で承認された。

・ 監査員として、泉佳成先生（昭和六十二年卒）が選出され、満場一致で承認された。

・ 質疑・香川大学の中での讃樹會の位置付けはどうなっていますか。

返答・香川大学本学の同窓会は学部で個々に活動しているようです。今後は何らかの連携をもちたいと思います。また、看護科との合併の件は先方との協議を経た上で場合によっては理事会で承認を経ることによりまた違った事業を行うことになると思う。看護科同窓会と連携をとる、または合併する等、今後の課題だと思います。（高橋会長）

13 閉会宣言

平成14・15年度収支計算書

単位：円

	予算	決算
A 収入の部		
前期繰越収支差額	16,404,008	16,404,008
会費・入会金	12,336,000	19,899,000
寄附金・広告費	3,000,000	3,858,740
雑収入（銀行利息）		38520
収入合計	31,740,008	40,200,268
B 支出の部		
会報製作費	1,000,000	1,498,880
会員名簿編纂費	2,000,000	1,836,100
後援協賛事業費	1,100,000	928,780
事務人件費	5,000,000	4,892,450
事務局・各委員会運営費	1,200,000	1,988,599
支部会費	1,000,000	474,761
通信費	2,000,000	1,103,554
学術協賛費	2,000,000	1,432,000
慶弔費	300,000	95,130
雑費	100,000	101,725
会館設立基金	2,000,000	2000000
学生援助基金	1,000,000	469,200
法人化調査費	500,000	0
予備費	500,000	380,305
支出合計	19,700,000	17,201,484
次期繰越収支差額	12,040,008	22,998,784

(注) 予備費支出380,305円は、予算額を計上して
 いなかったH P作成費用等に流用したもの
 であり、その内訳は右記の通りである。

同窓会H P作成費用	245,280
パソコン周辺機器購入費用	74,025
額縁表装代金	61,000
	380,305

貸借対照表

平成16年 3月31日現在

単位：円

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
資産		負債	
1. 流動資産	(22,998,784)	固定負債	(14,000,000)
現金・預金	22,998,784	同窓会館建設引当金	14,000,000
2. 固定資産	(14,523,731)	正味財産	23,522,515
同窓会館建設引当預金	14,000,000		
備品	523,731		
合 計	37,522,515	合 計	37,522,515

重要な会計方針 ・ 固定資産の減価償却方法
 備品.....定額法により実施している

財産目録

平成16年 3月31日

単位：円

資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現金・預金			
イ) 手許現金	98,777		
ロ) 普通預金	1,745,840		
	100		
ハ) 郵便貯金	41,412		
	8,074,200		
ニ) 定期預金	10,038,455		
	3,000,000		
	22,998,784		
2. 固定資産			
(2) 特定目的資産	14,000,000		
(3) 有形固定資産			
備品	83,700		
	440,031		
	14,523,731		
		37,522,515	

固定資産の内訳

単位：円

資産の名称	数量	取得年月	取得価格	償却方法	耐用年数	償却率	当期償却額	未償却残高
デルPC	1	11.04	219,870	定額	4	0.25	60,465	10,993
キャノンコピー	1	12.06	270,000	定額	5	0.2	97,200	83,700
富士通パソコン	2	14.03	529,600	定額	4	0.25	238,320	281,350
パソコン周辺機器	1	14.03	278,000	定額	4	0.25	125,100	147,688
			1,297,470				521,085	523,731

平成16・17年度予算

単位：円

A. 収入の部	36,955,784
前期繰越収支差額	22,998,784
会費・入会金	10,957,000
寄附金・広告費	3,000,000
収入合計	
B. 支出の部	24,300,000
会報製作費（@250,000円×4）	1,000,000
会員名簿編纂費	2,000,000
後援協賛事業費（新歓、卒業記念品、謝恩会、大学祭）	1,100,000
事務人件費	5,000,000
事務局・各委員会運営費	2,200,000
支部会費	1,000,000
通信費（@1,000×2,000部）	2,000,000
学術協賛費	5,000,000
慶弔費	200,000
雑費	100,000
会館設立基金	2,000,000
学生援助基金	1,000,000
法人化調査費	200,000
予備費	1,500,000
支出合計	
次期繰越収支差額	12,655,784

監査報告書

平成16年4月8日

香川大学医学部医学科同窓会
会長 高橋 則 尋 殿

公認会計士 岩村 浩司 

私は、平成14年4月1日から平成15年3月31日に至る平成14年度決算報告書及び平成15年4月1日から平成16年3月31日に至る平成15年度決算報告書の監査を実施した結果、適正妥当に表示されているものと認めます。

以 上

学長記念講演

平成十六年四月十一日、香川大学医学部臨床講義棟において平成十六年度讃樹會総会が開催され、香川大学長、木村好次先生に「法人化と香川大学」と題する記念講演をいただいた。香川大学医学部を取り巻く状況が激変している中で、統合・法人化の背景・現状・今後の展望などについて香川大学トップの真摯なお話を直接伺えたことは意義深いことであった。

法人化と香川大学

香川大学長 木村好次

みなさん、こんにちは。医学部同窓会の総会で話しをさせていただきます、大変ありがたく思っています。記念講演としては少し現実的過ぎる話題かも知れませんが、同窓会あるいは学内の方には、統合・法人化を経て大学が一体どう変わっていくのだろうと、ご懸念もあるうかと思われそうですので、その辺を今日はざっくばらんに話しをさせていただきます。

ご紹介いただきましたように、私は一旦定年になった後、工学部の創設のために雇っていただきました。それも五年でもう一度定年になりました、ずっと単身赴任で留守にしていた東京にやっと帰ってかみさんと旧交を温めていたところ、十一月月して今度は学長ということでまた呼ばれまして、帰ってまいりました。

さて、まず日本の国立大学はどう変わりつつあるのか、その辺か

らお話しをさせていただきます。大学改革と申しましても、残念ながら国立大学が自分たちでこう変わるうということが変わってきたものではありません。ひとつの大きなモーメントは不況でありました。バブル経済が壊れて不況になり、リストラと称して人員削減がいたるところで行われている、そういうときに、国立大学がそのままでもいいのかということです。さらに、日本の大学が世界の中心



木村学長のご講演

で競争力を問われているということがあります。ある評価では、先進四十九カ国の中で、日本の大学、高等教育は順位が四十九番目であるという状況です。そういうことから、大学が変わらねばならない、それが発端であります。

大学も競争の時代へ

平成三年と十年の文部科学省の大学審議会による答申は、非常に大きなインパクトを与えました。平成三年には、「大学の自律的な改革を促す」、これにより自己点検評価が導入されました。平成十年には、さらに明確に、「競争的環境の中で個性が輝く大学」にしなさいということでした。少子高齢化、産業構造の変化など二十一世紀の社会状況を背景に、大学改革の基本理念を三つ挙げています。まず、大学の自律性の確保、自分たちでいろいろなことを決めてくれということ。責任ある意思決定と実行のために体制を整備しなさい、それが二つ目。それから三つ目が大学の個性化であります。金太郎飴のような没個性的な大学を作る原因になっていた予算配分などを見直すということでもあります。

また、同時に、学生の数がどんどん減ってきています。このままだければ平成二十一年には、どこでもいから大学へ進学したいという人は統計上は全員入れる、大学としては入って貰わなくてはならないという状況に転換するであろうということでもあります。今日お集まりの若い方々にお願したいのですが、たくさん子供をつくっていただきたい。これが大学にとって一番ありがたいことです。さらに、外国への流出についても考慮しなければいけません。日本に今来ている外国の留学生が十万人、日本から外国へ七万人以上の学生が行っています。この数字はまだまだ少ないともいえませんが、世界貿易機構WTOの関心がそれまでの農産物、食べ物から、教育に移ってきていることから分かるように、これから

は教育が世界レベルでの競争力を問われるということでもあります。

法人化の発端

実を言うと、少し違った角度からこの法人化というのが考えられました。まず、小さな政府、行政をスリム化しようという考えです。日本では「公務員」に対しての関心度は高いんですね。僕も以前東京である研究所に所属している時、年末にパンクを直しにいった先の自転車屋のおじさんに、「大学というような、ものを作らないで消費するようなところでもボーナスは出るんですか」といわれまして、「ああ、世の中の人はそういう風に見ているんだなあ」とつくづく感じたのが印象に残っています。

国の行政のスリム化のために、水平分業と垂直分業ということが言われました。水平分業とは、国でやっていたものをできることは地方でやっってくださいということ。それから、垂直分業というのは企画をやるのとことと、実施するところを縦に分けましようということ、国立の研究所などを、国から剥がしていわゆる独立行政法人にすることなどが、これに該当します。小淵さんの時、大それた風にしてしまう風にはないかということが言われた。それは平成十三年からの十年間で国家公務員を二十五%削減するという目標があったところへ、国家公務員五十五万人のうちのちょうど四分の一を国立大学が占めていたために標的にされたものです。ただ、公務員の定員削減は、ずっと前から進んでいて、香川大学では昭和四十四年から平成十五年の間に十次に亘る定数削減があり、二六〇人の教職員が減らされました。もうこれ以上、定員削減を続けるわけにはいかないので、法人化というのが出てきたというのがその経緯であります。

遠山プラン

具体的には、遠山敦子文部科学大臣が中心になってまとめたい

いわゆる「遠山プラン」が大学改革のもとになります。まず第一点は、大学の再編、統合を大胆に進める。国立大学として存在するものがずっと存続することをア priori に認めるわけではありません、それを再編、統合しなさい。それから教員養成学部規模の縮小、再編であります。四国では、鳴門教育大学、香川、愛媛、高知の四つの教育学部がありますが、子供たちの数が減っているのだから、そんなにたくさんいらぬのではないかとというのが国の見込みでありまして、これはこれからまた大変な問題になると思われまふ。それから単科大学（医科大など）の他大学との統合等。医科大と指名されています。それで、旧香川医科大学の場合も、田中先生から田邊先生に学長が代わられる頃、非常に迷っておられたというように、なことが新聞でも書かれています。再編、統合するなら、他の医科大学と一緒にするべきなのか、あるいは地元で香川大学と一緒にするべきか、それが、遠山プランではっきりと単科大学の他大学との統合と方向付けがされまして、そこで踏み切られたように伺っております。

遠山プランの第二点が、国立大学に民間的発想の経営手法を導入する、新しい国立大学法人に早期移行しなさい、経営責任の明確化により機動的戦略的に大学を運営せよということ。第三点が、第三者評価による競争原理を導入する。いわゆる二十一世紀COEをはじめ、評価に応じて資金を配分しましょう、ということですが、実はこういう改革の方向には、イギリスに範をとっているところがあります。イギリスはサッチャーさんの時に、政府とは独立したThe Higher Education Funding Council for England (HEFCE) というそういう配分を担当するところを作りました。イギリスはもともと大学が独立の組織であり、もちろん、国から財政的な支援を受けてはいますが、大学は自治に責任を有する、その結果として大

学はその命運に自分で責任をもちなさい、管理の負荷、倒産する危険もありますよ、それから質の維持のための説明責任が生じる、こういういったイギリスの例が下敷きになつたんだと僕は思っています。

法人化とは何か

法人化というのは一体何か、簡単にご説明しますと、まず国立大学法人格をもつということ。今までは、



熱心に耳を傾ける参加者

国立大学の教職員は文部科学省の職員であり、各大学に配置されていた。ところが、今度は文部科学省から離れてきた大学法人が、大学の教職員を雇用していることになりました。それが一番大きな違いで、その狙いは、大学改革の確実な推進つまり文部科学省は潰れないかもしれないけれども、大学法人というのは倒産する危険性がありますよ、それがいやなら自分たちで改革しろ、とこういうことでもあります。そのためには、もつとトップダウンせよ、大学自身で重点的に資源配分せよ、教員人事を柔軟にせよ、学外者の運営への参加を図れなど、いろいろ言われております。また、職員は非公務員型ということになりました。ですから、今後は労働基準法が適用されることになり、それぞれの

学法人で就業規則を作るといふ大変な作業が必要となったわけがあります。

国大協の対応

この法人化の流れに対して大学の方は唯々諾々として従ってきたわけではありません。国立大学協会(国大協)というのは学長の組織であります。独立行政法人一般に対する通則法をそのまま大学に適用することに反対し、大学の独自性を入れたものにしてほしいという立場で、特別委員会を作り、文部科学省の調査検討会議へも参加しました。いろいろ意見は出しましたが、重要なのは運用であるということで最終的には、全体としてみると、二十一世紀の国際的な競争環境化における国立大学の進むべき方向としておおむね同意できる」と評価しました。

大学評価

さて法人化されますと、授業料、病院収入、こういうものの他は運営費交付金という形で配分されるわけですが、それは評価をした上でやりますよ、ということですよ。

大学評価には自己評価、外部評価、第三者評価と三つあります。まず、自己評価とは自分たちでの評価、外部評価とは自分たちの自己評価を外部に評価してもらうこと。それに対して第三者評価というのは全く別に大学を評価する機関があつて、そこが独自で指標を作つて評価します。

第三者評価にはさらに三種類あり、ひとつは「基準評価」、これはどの大学もこれから七年に一回は必ず受けなければいけないことになつていて、たとえば、ハードウェア、教室、教授陣、授業内容等を大学基準評価協会などが事細かに調べて、OK、おたくは大学としてやっていいですよ、というのを認めるもの。二番目の「達成度評価」は、東京の小平にある大学評価・学位授与機構とい

うのが行くもので、まず各大学で自ら目標を設定し、それをどれだけ達成したか、ということによって評価をします。ただ、達成度を高く出すために低い目標を決めるのはよくないから、設定したレベルとそれに対する達成度の両方をみましようというふうなことも言われております。三番目の「相対評価」というのは、たとえば、研究評価、教育評価です。香川大学の経済学部、法学部もそれを受けました。シビアなんです。おたくには国際レベルの先生が何%、そういう評価が相対評価で出てきております。これも大学評価・学位授与機構が行つたもので、その評価結果を尊重しながら実質的には文部科学省国立大学法人評価委員会が予算配分を担当します。

今、国際的な動きとして、世界規模での教育の品質保証ということがあります。アメリカではずいぶん前からプロフェッショナルエンジニアという資格があり、その資格をもつてないと、たとえば国際的な事業に参加できないということがありました。香川大学工学部ではJapan Accreditation Board for Engineering Education (JABEE ジャビー) という、技術者教育の資格認定みたいなことを受けようとしています。これは授業内容、試験の合格基準までが評価の対象となる厳格なものです。また、海外分校の設置などの国境を越えた教育サービスの展開など、国際競争力を確保しようという国際的な動きの中で日本だけが孤立してしまわないための努力の一環として、日本でもきちんと評価すべきということですよ。

資源配分

資源配分は、イギリスの例でいえば、先のEMMCMの実態はどうかといいますと、政府は高等教育の予算の総額は決めますが、大学の配分はそのEMMCMに任せます。EMMCMからの配分は「教育費に五兆ポンド、費用の七十五%を同等の活動に同等の配分」となり、



質疑応答

あまり厳しい評価はないようです。問題は次の「研究費に一・五兆ポンド」、これが五段階評価の上の方にほとんど重点的に配分されてしまつたというのがイギリスの実態であります。イギリスではサッチャーさんの改革以来、学生一人当たりの予算が約半分になつた。Party is overということ、これは恐ろしい話であります。

香川大学と香川医科大学および統合後の香川大学

以上が全体の流れでありまして、次に香川大学の法人化についてお話をします。統合前の香川大学と香川医科大学、および統合後の香川大学を比較してみます。確かに、これを合理化というのでしょね。まず学長・副学長が、旧香川大学では、学長だけが専

任の学長で副学長は教授の併任の職でした。旧香川医科大学では学長・副学長は三人の専任の方がおられて、統合して、三になつたというわけですね。ですから、まずここで一人の合理化が図られた、とこつういうふうな言い方をします。事務局長も一人減りました。教授は、教授の数で数えますと、旧香川大学が二〇〇、医科大学が五〇、助教授

も三〇〇くらいになっておりますが、助手は、三〇〇一四〇で圧倒的に医科大学が多いということでもあります。しかし、旧香川大学には附属学校があります。高松に中・小、坂出に中・小、養護学校がありまして、これは県との交流できてくれる先生方ですが一〇〇人になる、で合計、先生と称する方が旧香川大学三九二、旧香川医科大学二七〇。ですから、かなり大学の形が違うものだったということ、みなさん、まずここでご理解いただきたいと思つた。で、教員以外のという方は失礼ですが、行政職、技術職、教務職等、医療職、医療技術職等いろいろありますが、これが医科大学が非常に大きくて、教職員数のトータルは旧香川大学が七一六、旧香川医科大学が多くて八八八、こつういう状況であります。次に学生数ですが、学部が六、三三六人、大学院が六一三人、合計で約七、〇〇〇人の学生がおられる。その中で留学生はどうかとつうと、旧香川大学には私費で中国、韓国、東南アジアからの留学生が大変多いという状況です。お金のことはどうかといいますが、これは法人になる前、平成十四年の決算になりますが、大きな病院がございますので旧香川医科大学の方が歳入が圧倒的に多いし、歳出も三〇億ほど多くなつています。

国立大学法人香川大学の運営組織

そつういう二つの大学が一緒になつて新しい大学を作つたのが、昨年の十月一日ですが、それから本年の四月に法人になりました、その運営組織がどうなつてきているかといつうと、まず役員会といつうのが、経営の責任を持つ主体であります。これは学長と理事六名からなります。竹内博明先生は旧医科大学で看護学部長をしておられました。現在は副学長で、教育担当。ですから入学試験からカリキュラムから就職までご担当であります。もうひとりの副学長が、芳澤毛實先生。食品安全性といつうしまして、きのこの毒の専門家

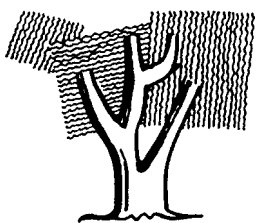
です。研究のご担当。そして、上杉正幸先生は教育学部の教授ですが、企画担当、洋泉社新書の「健康病」というベストセラーを出されましたのでご存知の方もあるかもしれません。これからの大学を五年、十年先を考えて組織、システムを作っていくってほしいということをお願いしてあります。それから労働担当が、高木健一郎さん。この方は四国電力で長いこと人事労務畑を歩いてこられた方です。公務員法の世界から労働基準法の世界に入りましたから、経験の豊富な民間から来ていただきました。その次が高津義典さん、経営担当です。この方は工学部の教授ですけれども、それ以前に当時の通産省で四国通産局長をやった方です。ですから、そういう面から経営を担当してくださることをお願いしています。総務担当がもと医科大学で事務局長をやっておられた桐岡博道さんです。この六名が理事になっております。この役員会の他に、経営協議会といましてこれに長尾病院長もお入りいただきます。理事と病院長、それから学外の有識者、たとえば大阪医大の島田学長とか、香川県ユネスコ連絡協議会の中井慶子さんとか、そういう方に入っていただいているというわけであります。経営に関するところはそこで審議する。教育研究に関するところは教育研究評議会で行う、ここでは部局長のほか学長指名職員として、それぞれの学部から選んでいただいた方がいます。あと部局長等会議。こういうところで運営していこうというところでございます。

法人化して何が変わるのかとよく聞かれますが、この新しい香川大学の理念・目標というのは昨年十月に統合する前に両方の大学から先生方に出していただいて、法人化の先を見越している議論していただきました。ですが、形が違う大学が一緒にありますと、どうしても最小公倍数といいますが、あまり特徴の強いものは

出てこない。あえていえば、「地域社会との関係」ということが香川大学のひとつのポイントだと思っております。というのは、たとえば首都圏と、ベッドタウン化している近郊の関係に比べて、香川という地域は全然違います。行政、産業、教育機関がひとつの塊を作っておりますから、そこでの地域貢献、「知」の源泉として」と謳っておりますが、文化、産業、医療、生涯学習の振興に寄与する、それがひとつの目標かと思えます。そういうものに基づきまして、中期目標として地域計画を作成しました。しかし、これはそれほど個性の強いものじゃない。ただし、大学の持つべき個性というのが、どこかより特化することばかりではないと僕は思っています。ですから香川という地域性をもって、香川の中におけるひとつのコアになる、というところを全方位的な活動をしなければならぬかもしれない。しかし、それはそれで僕はひとつの個性だと思っています。これは中期目標ではあまり強くは書けませんでした。これから五年後十年後の香川大学をどうしていこうか、これはこれから、腰をすえて特徴を出していかなければいけないと思っております。

ふたつの随分形の違う大学のそれぞれの伝統、これは僕は大事だと思っておりますが、その伝統の上に新しい香川大学を育てていきたいと思っておりますので、どうぞこれからもご支援をよろしく願います。

どうもご清聴ありがとうございました。



発表!! 讃樹會ロゴマーク決定



デザインの由来

三本の木は三木町の町木であるメタセコイヤをイメージし、それぞれ診療・研究・教育を表しています。基本色はスクールカラーである緑を、背景は香川県の特色である青空と池のブルーを表しています。

ロゴマークの募集に対し、締め切りの直前まで、会員のみなさまからたくさんのお応募がありました。最終十八点の力作の中から四月十一日の総会で上位三点が選ばれ、その後五月十七日開催の理事会で最終投票が行われました。

参加理事の半数以上の支持を得て、左記作品が讃樹會ロゴマークとして選ばれました。

募集に際しご応募いただきましたみなさまに厚くお礼申し上げます。

カラーの作品は、会報裏表紙をご覧下さい。また、総会の投票で上位に残りました応募作品はホームページにて見ることが出来ます。

平成16・17年度 役員・学年理事一覧

卒年	氏名			
S61	名誉会長 濱本 龍七郎	会長 高橋 則尋	編集委員長 大森 浩二	平川 栄一郎
S62	副会長 関 啓輔	泉 佳成		
S63	伊藤 理	横井 徹		
H元	宮本 修	松本 義人		
H2	調査委員長 宮部 和徳	羽場 礼次		
H3	中條 浩介	三木 崇範		
H3院修了	理事長 安岐 康晴			
H4	乾 政志	田井 祐爾		
H5	学術委員長 西山 成	岡田 仁		
H6	加地 良雄	佃 文夫		
H7	岩永 康之	植木 昭彦		
H8	宮下 武憲	村田 晶子		
H9	藤原 理朗	村上 和司		
H10	真鍋 健史	松田 陽子	加塩 裕美子	
H11	松向寺 孝臣	横平 政直		
H12	森脇 久美子	瀧波 裕之		
H13	森下 淳	中野 淳	田岡 利宜也	
H14	伊原 玄英	田中 麗沙		
H15	吉本 卓生	水川 瑞紀		
H16	中村 信嗣	小谷野 耕佑		

讃樹會 関西支部会報告

医療法人財団喜望会谷向病院

谷 向 茂 厚

(昭和六十二年卒)



五月二十三日日曜日大阪ホテルグランピアで関西支部会が行われました。関西支部会長の昭和六十二年卒業の磯篤典先生の開会宣言に続き昭和六十三年卒業の村田顕也先生(奈良県立医科大学神経内科講師)と平成五年卒業の西山成先生(香川大学医学部薬理学講師)による記念講演も合わせて行われました。参加人数は卒業生二十四名に加え、来賓として元副学長の宇多弘次先生、大阪医科大学学長の島田眞久先生が参加され総数二十六名でした。

講演の後、参加者全員による記念撮影、その後懇親会が行われました。

懇親会での自己紹介では関西のいろいろな大学に同窓生がいること、また反対に意外に身近な病院にも同窓生がいることに驚かされました。

今年の支部会は昨年より参加人数が減り、少し寂しい感じもしましたが会場で配られた名簿を見ると三〇〇名をこえる同窓生が関西地域で活躍されていることが分かりました。

私も含め、関西地域にいる同窓生の殆どが卒業後香川医科大学に

残らず、関西の大学の医局に入局しています。そのため、入局大学の人事で勤務していた頃はどうしても母校との距離が開き気味でした。私の回りにも数人の同期生がいますが、あまり母校とのつながりもないようです。

しかし実家の病院の経営を行うようになると入局した大学の医局とのつながりも大切ですが、やはりいざという時に頼れるのは同窓生だと痛感しています。

(当院では消化器内科医、呼吸器内科医を募集中です。同窓生で興味のある方がおられましたらご一報下さい。)

香川医科大学も国立大学の統合の流れで香川大学医学部となり、香川医大の名前が消え少し寂しい思いもありますが来賓の島田先生のお言葉にもありましたが、卒業大学を盛り上げていく大きな原動力は同窓会であるということをとめ、来年からは周りの同窓生を誘って関西支部会に参加しようと思いました。

昭和六十一年卒の辻(旧姓奥村)先生、昭和六十二年卒の檢垣先生、中井先生、来年は声かけるから一緒に支部会にいきましょう。



ご来賓 宇多弘次先生



ご来賓 島田眞久先生

第3回関西支部会



高橋則尋会長

講演中の村田顕也先生
演題は「日常臨床に役立つ筋病理」



磯支部会長



司会の清元先生



講演中の西山成先生
「レニン・アンジオテンシン・
アルドステロン系と臓器障害
についての最近の話題」



講演で質問される島田先生



磯先生より村田先生へ記念品の贈呈



磯先生より西山先生へ記念品の贈呈



明渡先生・田中先生・岡崎先生・小笠原先生



櫻井先生・喜田先生・山田（勇）先生



小笠原先生・古泉先生・山田（豊）先生



山田（豊）先生・弓場先生・高見先生



中西先生・谷向先生・清元先生



阪本先生・先山先生・豊田先生・清元 加代 先生

一言メッセージ

〈出欠のお返事から掲載させていた
だいています。〉

ご盛会をお祈りします。

なかなか都合がつかず申し訳ありません。
(昭和六十一年卒 沖野 毅)

大学の都合で出席できません。
(昭和六十一年卒 松下 哲也)

都合により参加できません。申し訳ありません。
(昭和六十二年卒 桑原 宏子)

申し訳ございませんが欠席させていただきます。
(昭和六十二年卒 安藤 博重)

現在一人で診療所を任されており、何かと多忙で当分出席出来そ
うありません。申し訳ありません。
(昭和六十二年卒 山本 徳寿)

子供がまだ小さく、残念ながら欠席させていただきます。また、次回を
楽しみにしています。
(昭和六十三年卒 津川 猛士)

その日は結婚式があいにく入っていますので残念ながら欠席させ
て頂きます。村田顕ちゃんがんばってね。
(昭和六十三年卒 佐藤みどり)

この度は関西支部会の開催ご苦労様であります。五月二十二日は
日本整形外科学会開催期間でもあり、抽選で大学の当直勤務にも
当たってしまい支部会に参加できなくなっていました。お返
事が遅れましたことを心からお詫び致します。参加される皆様方
によるしくお伝え下さいませ。

(昭和六十三年卒 家口 尚)

幹事さま ご苦労様です。まだ、はつきりしないのですが、一応
参加させていただけると思います。返事が遅くなり大変申し訳あ
りませんでした。宜しくお願い申し上げます。
(平成元年卒 明渡 郁子)

遅れてすいません。研修会があり出席できません。開業して一年。
頑張っています。
(平成元年卒 小林 照明)

申し訳ございません!!
(平成元年卒 井上 慎二)

申し訳ございません!!
(平成元年卒 井上佐知子)

5月に転居します。
(平成元年卒 内田 淳)

忙しいので欠席致します。
(平成元年卒 近野 真嗣)

メールを頂きまして有り難うございます。今回私の体調の関係で
お返事するのを延ばしてりましたが、やはり出席することが困
難となっております。誠に恐縮ではございますが、欠席とさせて
頂きたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。
(平成元年卒 西尾 元)

関西支部会への出欠の返事が遅くなり申し訳ありません。二十三日は
仕事の都合により欠席させていただきます。皆様によるしくお伝え下さい。
(平成元年卒 岸本 正文)

幹事様いつもご苦労様です。返事が遅くなり申し訳ございません。
関西支部総会の日はどうしても都合がつかず、今回は残念ですが
欠席させていただきます。次回会える日を楽しみにしております。
(平成元年卒 清水恵美子)

(平成元年卒 清水恵美子)

前略 同窓会の案内有難うございました。同日は残念ながら学会にあたっており、欠席させて頂きます。今回は是非参加させて頂きたいと存じます。草々

また、いずれの機会に。

(平成二年卒 藤谷良太郎)

今回も失礼致します。また、お誘い下さい。

(平成二年卒 申 正樹)

幹事様ご苦労です。昨年はどうも失礼致しました。皆様によしくお伝え下さい。

(平成三年卒 小林 裕之)

皆様のご活躍を祈っています。

(平成三年卒 西村 活也)

当日、当直の為欠席させて頂きます。

(平成三年卒 金光 直子)

今年も参加出来ずにすいません。三月に二人目出産しました。育児頑張つてまーす!

(平成三年卒 瀬尾 靖)

拜復 関西支部会のご案内を頂きまして有難うございました。ご返事が遅くなりまして申し訳ありません。申し訳ありませんが、欠席させて頂きます。前日より出張の予定が入っておりまして、どうしても時間の都合がつかえません。大変残念ですが申し訳ありません。草々

(平成四年卒 木下 博之)

申し訳ありません。現在のところ当直が入っています。代わりを探しますが厳しいです・・・

(平成四年卒 荻田 和秀)

次女を出産した直後の為参加出来ませんが、またの機会には是非

参加したいです。

(平成五年卒 畑 幸)

メール有難うございました。今回も参加したいと思っていたのですが、子どもを見てもらえる都合がつかず、今回は不参加にさせて頂きたく思います。連絡が遅くなって申し訳ありません。宜しくお願ひいたします。

(平成五年卒 齊藤 三佳)

いつも同窓会の御世話頂き、有難うございます。関西支部会の出欠のお返事が遅くなりすみません。同期の西山先生が講演されるということで出席したいのはやまやまですが、来週からアメリカに留学するため今回は欠席させて頂きます。

(平成五年卒 下野九理子)

申し訳ありませんが、多忙につき欠席させて頂きます。

(平成六年卒 西條 雅康)

都合により欠席とさせて頂きます。

(平成七年卒 榎本祥太郎)

ご丁寧にご案内いただきましてありがとうございます。あいにく当日はすでに予定がありまして、参加できません。

(平成七年卒 中尾 博之)

前略。ご丁寧にご案内を再度頂きまして、有難うございました。案内のお返事が遅れましたこと、申し訳ありませんでした。また、当日は抜けられない私用がございますので、無理を申しませんが、欠席でお願いしたいと思います。皆様のこれからの活躍をお祈りいたしております。以上、用件のみにて失礼します。草々。

(平成七年卒 川添 剛)

残念ですが、所用の為欠席させて頂きます。

(平成七年卒 岡 大三)

この度は、ご連絡有難うございました。五月二十三日は当直が入っておりまして、残念なのですが参加することができません。次回は必ず参加させて頂きますので、よろしくお願い致します。

(平成七年卒 山田 紘子)

お世話になります。返事を郵送したつもりでありました。申し訳ありません。当日は当直になっておりまして残念ながら参加できません。面白そうな演題で聞きたいとは思っていますが、次回はぜひ参加したいと思えます。

(平成七年卒 渡部 徹也)

今回は欠席させて頂きます。申し訳ありません。

(平成八年卒 中川 圭一)

只今シアトル、ワシントン大学留学中です。皆様によりしくお伝え下さい。

(平成八年卒 田中 敦子)

都合がつかず欠席させて頂きます。

(平成九年卒 永谷 周子)

同窓会の諸手配、いつもご苦労様でございます。わざわざ丁寧なメールをありがとうございます。誠に残念ですが、今回の関西支部会は欠席させて頂きます。こちらの医局旅行と重なってしまいましたので次回の機会には是非参加させて頂きます。あと、同窓会の日程ですが、日曜日の昼間、というのは参加しにくい人も多いのではないのでしょうか。土曜日の夕方などはいかがでしょうか。一度、アンケート等、取ってみることをお勧めします。また、グラウンディア定地開催、というのもし面白みに欠ける気がします。勝手ばかり申し上げて、失礼を致しました。今後とも、よろしくお願致します。

(平成九年卒 西谷 暁子)

関西支部会への参加についてメールを頂いておりましたが、返事が遅れましたことお詫び申し上げます。どうか都合をつけて参加させて頂こうと考えておりましたが、折り合いが未だに付きません。残念ですが今回は不参加とさせて頂きます。もし、都合が付きましたら当日参加が可能でありましたら参加させて頂きたいと思えます。

(平成九年卒 畑 泰司)

引越しました。

(平成十年卒 足立 俊典)

転居致しました。

(平成十年卒 安田 由華)

ご連絡有難うございます。今回の関西支部会には多忙につき欠席させて頂きたく存じます。返事が遅くなり誠に申し訳ありませんでした。

(平成十年卒 細見 尚子)

メール有難うございます。お返事が遅くなりまして申し訳ございません。また同窓会開催の出欠の返事も遅くなりましたことをお詫びいたします。五月二十三日の同窓会なのですが、昨年生まれの子供がまだ六ヶ月と小さく、同窓会への出席も検討していましたが、未だに連れて歩くにも置いて出かけるのにも一仕事といった状態です。大変申し訳ございませんが、本年度は欠席とさせて頂いたいただきます。皆様どうぞよろしくお伝えください。京都府の市立福知山市市民病院眼科で二年目になりました。昨年出産し、子供を保育園に預け、産後二ヶ月で復帰しました。忙しいながらも子供の成長を楽しみに日々働いております。今後ともどうぞよろしくお願致します。

(平成十年卒 稲葉 純子)

ご案内頂きまして、有難うございます。また、返事が遅れていましたこと、お詫び申し上げます。その日は以前より予定が入っており、残念ですが参加できません。講演会なども予定されており、大変勉強になる会であると思うのですが、はずせない用事があるため、今回は不参加とさせて頂きます。次回開催されるときは、是非参加させて頂きたいと思っております。

(平成十年卒 辻 泰美)

遅くなって申し訳ありません。関西支部会の件ですが、欠席させて頂いたできます。ただいまパソコンのメールの調子が悪いので、携帯のメールで失礼いたします。

(平成十年卒 天道 正成)

五月二十三日は病院関連の行事があり参加できません。宜しくお願ひ申し上げます。また、勤務先住所が変更となりました。

(平成十年卒 藤本 壮之)

大変申し訳ございませんが関西支部会を欠席させて頂きます。

(平成十一年卒 古林 利治)

せつかくの同窓会のお誘いですが、仕事の関係上参加することが不可能です。またの機会に参加させて頂きます。

(平成十一年卒 野田 泰照)

あいにく同窓会当日は仕事の都合により欠席させて頂いたできます。よろしくお願ひ致します。

(平成十一年卒 藤原 幹夫)

重ね重ねのお誘い、ありがとうございます。幹事の先生方、お疲れさまです。当日は私用のため欠席させて頂いたできます。

(平成十二年卒 岡野 佳子)

欠席致します。皆様によりしくお伝え下さい。6月1日から勤務先変更します。

欠席でお願い致します。

(平成十二年卒 木村 真実)

出席することが出来ず、大変申し訳ございません。

(平成十二年卒 原 仁美)

残念ながら今回は参加できません。

(平成十三年卒 弓場 智子)

ついに香川大学になってしまったんですね。

(平成十四年卒 山口唯一郎)

いつも欠席ばかりですいません。住所変わりました。

(平成十四年卒 大八木秀和)

皆様のご活躍をお祈りします。

(平成十四年卒 市田 美保)

お返事大変遅くなり申し訳ございませんでした。また、ご丁寧なメールありがとうございます。関西支部会ですが現在妊娠中であり、残念ですが欠席させていただきます。来年(次回)は是非。

(平成十四年卒 森 直人)

こんにちは。東大阪市立総合病院麻酔科勤務、平成十四年卒十七期の上北郁男です。先日はわざわざ御案内をお送りいただきましたのに返事が遅くなり申し訳ありません。あいにく当日はすでに先約が入っており、出席することができません。せつかくの機会を大変残念に思っております。またの機会を楽しみにしております。末筆になりましたが、御盛会となりますようお祈りいたします。

(平成十四年卒 川崎 彩子)

当直が入っている為出席できません。せつかくご案内頂きましたのに申し訳ありません。

(平成十四年卒 上北 郁男)

(平成十五年卒 逢坂 順子)

参加者一覧

卒年	氏名
ご来賓	宇多弘次先生、島田眞久先生
S六十二年	磯篤典、谷向茂厚、島田健永
S六十三年	村田顕也、清元秀泰、中西源和
H元年	喜田智幸、明渡郁子、田中あゆみ
H三年	豊田裕敬、山田勇
H四年	清元加代、岡勝己
H五年	西山成、山田豊、弓場雅夫
H六年	阪本紀子、先山由美
H七年	小笠原延行
H九年	岡崎知子
H十年	古泉真理、櫻井敦
H十五年	高見充

参加人数計 二十六人

第3回関東支部会開催のお知らせ

日時...平成16年11月13日(土)午後6時半より
 場所...銀座アスターお茶の水賓館(通称 銀座アスター)
 講演...自治医科大学形成外科助教授 菅原康志先生
 会費...一万円程度

今回は立食形式でお気軽にお過ごしいただけます。
 大勢の方の参加をお待ちしています。
 支部会の方にはすでに詳細をご連絡していますので、9月30日までに
 出欠のお返事をいただきますようお願いいたします。
 また、誠に勝手ながら、当日及び前日のキャンセルについては
 キャンセル料をご請求させていただきます。

関東支部会員の該当県は以下のとおりです。
 東京都、茨城県、群馬県、埼玉県、山梨県、神奈川県、静岡県、千葉県、
 栃木県

平成十五年度第六回理事会

日時 平成十六年四月五日（月）一九：三〇

場所 管理棟五F小会議室

参加者 名誉会長 濱本龍七郎

会長 高橋 則尋

理事長 関 啓輔

事務局長 乾 政志

財務委員長 安岐 康晴

編集委員長 清元 秀泰

調査委員長 宮部 和徳

学年理事 昭和六十一 大森 浩二 平川栄一郎

昭和六十二 泉 佳成 河井 信行

平成四 田井 祐爾

平成七 森上 徹也

委任状十五名 以上二十八名

関理事長は理事会開始に間に合わないため、代わりに高橋会長が司会を行う。

平成十六・十七年度予算案

安岐財務委員長から提示された十六・十七年度の予算案の資料をもとに審議する。またこの時点では十四・十五年度決算の最終の数字が出ていないとの注釈があった。

清元「法人化調査費があがっているが法人化の見通しは？」

高橋「会館を建てるとした場合、国立大学の場合は難しかったが、

大学が独立行政法人化になったことで意味づけが変わってくるので、調べてみないといけないと思う。項目だけあげておいてもいいと思う。」

清元「前の理事会で広告をあまりとらない方がいいとか、会報の発行回数を減らそうとか話があったと思うのだが予算ではどうなっているのだろうか。」

また、国外助成金が年に一〇〇万となっているが、同窓会でこつこつと貯めてきていて資産合計も増えてきているので、学術協賛費を見直してみるのはどうか。最近では応募も増えてきたし、若い人の研究に対して出してあげたい。応募要項では一人がいくらかはつきりしていないし、全体の限度額が決まっているので、応募のタイミングによっては差ができてしまう。これまでほうまく配分できてきているが、海外助成だけではなくて、学内での研究とか、開業医でも研究側面で何かやりたい人とかを、審査する機構があってもいいのではないか。また、業績によってもきちんと審査できればものすごく成果をあげている人にそれなりの援助ができるのではないか。

会報の発行を減らして、その分、学術協賛費にもつてくるとか検討してもいいのでは。」

高橋「繰越金がこれだけあるので、予算内で再配分するのでなくて、そこだけ増額してもかまわないと思う。予算はいくらにすればいいと思うか。」

清元「五〇〇万。学術協賛費が同窓会の予算の中で少ないと思う。二年で二〇〇万だったら、一年で一〇〇万なくなったら残り一〇〇万というふうに限られてくる。予算は二年に一回の総会でしか承認されないから、多めにとっておいた方が

いいのでは。」

濱本「学術協賛費を増やせば、留学する人以外にも学生、研修医、指導医、等にも幅広く還元してあげることになると思う。」
清元「若い人のために、学術関係の予算を厚くとおいてあげたい。どのように使うかは今後決めていくとして。」

高橋「とりあえず五〇〇万を予算でとっておいて、内容は新しい学術委員長、理事会で検討していくという形でしょうか。今後は集めたお金を会員に還元していく方向で同窓会の運営を進めていきたい。」

同様に、集まった会費を有意義に利用していくべき、貯金を増やすのではなく会員のために償還してあげるべきだ、貯めるのならある程度将来のビジョンが必要、等の意見が出た。

参加者からの要請があり、安岐財務委員長が決算資料として十四、十五年度の支出項目、概略の金額を読み上げ、それをもとに予算のおおまかな項目について意見を募る。

高橋「当日はこれをもう少し監査した形で、資産目録等を含めてきちんと出してほしい。」

会費規定の条項追加案

1、終身会費

「十年会費の二回目を徴収する時期がそろそろ来るが、同窓会によつては終身会費という形をとっているところもあるので、終身会費を作つてはどうか。会によつては、入会時に定額を納入すればそれを終身会費としているところもある。会員の追跡も長期にわたるとむづかしくなる。」という提案に対し、特に反対意見なし。年数として二十年くらいが適当。十年会費を二回分、もしくは年会費五〇〇〇円の二十年分をもって終身会費とすることに決定し

た。

2、準会員の正会員昇格時の入会金免除

平成十年以降の準会員（学生）は、入学時に会費とは別に五〇〇〇円を入会金として納入している。その準会員が正会員に昇格する場合、正会員入会金の一〇〇〇〇円は免除してもいいのではないかとこの提案に対し、全員賛成で免除することに決定した。

3、夫婦会員の割引について

会員が夫婦である場合、会報・名簿等送付物が一人分届くのは無駄な場合があるので、送付物は夫婦で一名分送付とし、その分、多少でも会費の割引を考へてほしいとの要望があったことに対し（参考：夫婦会員は約一三〇名、正会員数の七・八％）、夫婦でも職場がちがう場合が多いので、従来どおり個人としてとらえることとする。

名簿・会報発行報告及び印刷代決済

平成十六年二月号（二十七号）の発刊報告が清元編集委員長からあった。

国外留学助成審査

平成十六年度第一回目の応募者二名について、総会後の新理事による新体制で、後日、審査をおこなうことに決定した。

総会に向けて

タイムスケジュールにそつて進行・議事内容の概略を検討した。また、平川栄一郎先生の教授就任を口頭で総会でお知らせすることとなる。

ロゴマークは、総会で上位3位に絞り込んで、それをもとに理事

会で決めることになる。

動員はひきつづき、会員に声かけする。

その他

清元前事務局長から、事務局長をしていたときにパート事務員の就業規則を作ったが、規則にある年次昇給がなされていないので昇給すること、過去の差額を補填してあげたい。」と提案があり、理事多数による支持もあり、今年度の定期昇給および過去の差額は一時金として支給することが承認される。詳細は就業規則に則り事務局長に一任ということになる。

さらに、清元先生から、「今度新しくできた卒業後臨床研修センターが四月末から本格的に移動するが、雑務を処理する要員の予算が足らずに人手を補えず大変困っている。同窓会で援助してほしいので理事会で話し合ってもらえないか」という話も出ているのだが、一日一時間くらい、ちょっととした掃除、郵便物などの配達等の業務のお手伝いを、同窓会の事務員がしてあげるといっているのはどうだろうか。予算がつくまでの暫定的な対処ではあるが、開学二〇周年の時に、大学が困っていれば同窓会は何をしてあげるかということとで検討して多額の寄附をしたように、今回は実際にお金を出さないが何かしてあげられることといえばそんなことぐらいかなと思っただが」との議題提示があった。

濱本 研修医への還元の意味ではそういうことをしてあげたらいいかと思う。」

高橋「公式、非公式にかかわらず大学側から依頼があれば、話し合いの場をもつということはどうですか。」

平川「人情的にはすぐに出してあげたいが、センター長なり学部長なりが同窓会の方に要請してくるという形が必要だと思

う。期限の延長の際は更新の要請をしてもらって。次の総会か理事会にかけたら、きつとみんな賛成するだろう。」

清元ではそういうことで回答としては要請を受ければ理事会で検討するということですね。」

高橋とくに他になければこれで終わります。」

平成十六年度第一回理事会

日時 平成十六年五月十七日(月)一九:三〇

場所 管理棟4F会議室

参加者 名誉会長

濱本龍七郎

会長

高橋 則尋

財務委員長

安岐 康晴

調査委員長

宮部 和徳

学年理事

昭和六十一年

大森 浩二 平川栄一郎

昭和六十三年

伊藤 理 横井 徹

平成元年

宮本 修

平成四年

田井 祐爾

平成五年

岡田 仁 西山 成

平成六年

加地 良雄

平成七年

岩永 康之

平成八年

村田 晶子

平成九年

藤原 理朗 村上 和司

平成十年

松田 陽子

平成十一年

松向寺孝臣

平成十三年 森下 淳
 委任状十二名 以上三十二名

理事長の選出 高橋会長司会

会則に則り参加理事に理事長推薦を問うが、自薦他薦ともなし。その後、高橋会長から安岐康晴先生の推薦があり、満場一致で安岐康晴先生が理事長に決定した。

安岐先生から「大変微力ではありますが、讃樹會の発展のために頑張っていきたいと思えます。ご協力をお願いしたいと思えます。」との挨拶があった。

役員を選出

これより新理事長の安岐先生の司会に移行する。

高橋会長より「従来から、理事会の中で四つの委員会を持つていきます。編集委員長に第二内科の大森先生、財務委員長は前回に引き続き当方は第二内科の安岐先生、調査委員長は耳鼻科の宮部先生、学術委員長は今回は薬理学の西山先生をお願いしたいと考えていますが、これにつきまして皆様の「ご承認をいただけたらと思えます。」との推薦があり、満場一致で承認された。

さらに「活発に委員会が開催できますように場合によっては理事の皆様のお力をお借りするようになるかと思えますがよろしくお願います。また、まだ来られていないですが、従来通り事務局長を乾先生に引き続きお願いしたいと思いますので「ご承認をお願いします。」に対し、満場一致で承認された。

ロゴマークの最終審査

総会の投票で残った上位の四作品からいいと思うものを選び、

ひとつだけ挙手する。

原作がカラーの作品はまず原作を回覧した。過半数以上を獲得した作品に決定した。

国外留学助成金審査

平成十六年度第一回応募に対し、二名の申請者があった。前年度学術委員会ですでに一次審査を通過しているので、理事会で二次審査を行う。審査要項に則り、萩池昌信先生（平成五卒）と、松原啓介先生（平成九卒）に助成金の交付及び、助成額が決定した。

その他

濱本名誉会長から、「新しく委員長に任命された方の言葉をお願いしたい」との要請があり、新委員長の挨拶が順に行われた。

大森浩二先生（編集委員長）

「昭和六十一年卒業の二内の大森です。よろしくお願います。

高橋先生から「ご依頼頂いて承諾致しました。一生懸命やりますので原稿などをお願いしたりします時にはよろしくお願います。」

宮部和徳先生（調査委員長）

「耳鼻科の宮部です。調査委員会はあまり仕事がないのですが、できるだけ頑張りたいと思えますのでよろしくお願います。」

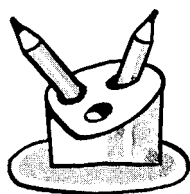
西山成先生（学術委員長）

「初めて理事会に参加させていただきました。まだ何もわかりませんが、高橋先生、濱本先生から要請を受けまして、全力を尽くして頑張りたいと思えます。今までのシステムがわからないので、また皆さんにいろいろとお伺いすることもあるかと思えますけれどもよろしくお願います。」

安岐康晴先生（財務委員長（兼任））

「財務委員長をやらせていただいています。月一回、公認会計士の方と財務について打ち合わせをしています。よろしくお願います。」

最後に高橋会長から「例年、第一回の理事会には非常に多くの理事のみなさんが集まっていただけなのですが、会を重ねることにしりすぼみになっていくのでこれからも参加をお願いしたいと思います。大学にとっても実際十六年度というのは統合されて初年度ですし、独法化ということもありますし、十六年度からは研修生も回っているということで、これから同窓会として大学執行部に意見をいろいろ述べさせて頂く良いタイミングなんだろうと思います。是非、この理事会を充実させて、できるだけこちらも従来にないような形で運営を考えていきたいと思えますので活発な意見を賜りますようよろしくお願いします。」と締めくくられ、安岐理事長の閉会のことばで終了した。



特集1

新研修制度スタートにあたって

卒後臨床研修がいよいよ始まりました

私たちはどう変わらなければならないのか



卒後臨床研修センター長

石田 俊彦

1、香川大学医学部附属病院での研修プログラムの特徴

平成十六年度の卒後臨床研修が本学医学部附属病院でも始まり、二年間の新医師臨床研修制度は、将来の専門にかかわらず、地域住民から信頼される医療人として幅広い基本的診療能力を身に付けるために、到達目標を明示して、プログラムに沿って診療科をローテート研修する制度です。管理型相当の本学医学部附属病院と県内の協力型臨床研修病院および臨床研修協力施設とで臨床研修協力病院群を新しく構築しまして、香川大学医学部附属病院卒後臨床研修プログラム（オリープ）が、卒後臨床研修プログラム（OKMIC）として五つのプログラムを作成し、現在二十五名の研修医が四月より研修を始めています。OKMICのプログラムはタスキがけではなくて、全員大学病院で一年間、基礎的な診療技能、

態度を習得し、考える研修と研究が芽生えるような研修が提供出来るプログラムであると確信しています。研修一年目は、内科系（西四階病棟、東四階病棟、西七階病棟を3ユニットとしてそれぞれ九週間）、外科系（西三階病棟と東三階病棟を1ユニットとして九週間）と、救命救急センター／総合診療部と麻酔科を1ユニットとして、この5ユニットを九週間の予定で、それぞれローテーションしています。二年目は、全員が三ヶ月から十二ヶ月の期間、それぞれの協力型臨床研修病院および臨床研修協力施設で研修をさせていただきますので、同窓会の先生方にはよろしく願っています。しかし、このプログラムを有意義なものにするには研修医の熱意だけでは不十分で、指導する医師すべてが新しい二年間の研修目標を理解し、指導する情熱を持たなければなりません。

2、臨床研修病院としての医学部附属病院に求められているもの

高度先進医療を行う場として大学病院が位置づけられているので、大学病院では初期研修は困難だとの意見があります。しかし、本学附属病院には救命救急センターと総合診療部があり、一次から三次救急まで診療する方針ですので、大学病院でありながらプライマリ・ケアを中心とした基礎研修も可能となっています。従来、どの領域を何ヶ月間まわって、どのような患者を診療し研修するという研修目標から脱却して、今後は、どのように患者を診療し、患者を全人的に理解でき、患者・家族の心理的・社会的問題を共有し、適切に対処できる統合性を重視した幅広い視野・能力を獲得させる研修を提供することが重要です。

各病棟あるいは協力型臨床研修病院で研修医を指導していただく主治医（医員・助手）や指導医の方々の中には、自分あるいは自分達の専門領域の直接の後継者になる研修医のためなら、多少の

苦勞はいとわないが、研修終了後にどのような進路選択をするかわからない研修医に、等しく教育的関わりを持たなければならぬことは腑に落ちないとか、戸惑いや不安を感じている方も、多くおられかもしれませんが。しかし、医療教育を取りまく環境は大きく変わってきていることを理解して下さい。少なくとも二年前の初期研修は、国民が期待する医師を養成するために、屋根瓦方式で全ての医療従事者が研修医に接することが必要条件です。もちろん、医学教育は卒前教育・卒後初期研修・卒後後期研修・専門医研修・生涯教育研修と連動し、一貫性のある理念・方略のもとになされるべきです。大学病院だけがこの連続性のある教育が提供できる場ですが、臨床軽視の大学病院が多かったために、充分には機能していないことを反省して、教育・研修システムを討議しなければなりません。また、従来の専門性のある研修内容と懸け離れていきますので、指導に戸惑いとジレンマを感じている方もおられると思います。しかし、後半の二年目に六ヶ月間の選択コースをたくさん用意していますので、これらを利用して研修医の希望に沿って専門医育成の足掛かりにすることは可能です。

3、医療圏における研修医と指導医の関係

この新医師臨床研修制度は、多くの問題をかかえて進み出していますが、病院にとつては存在価値をアピールする千載一遇の好期です。研修医の存在が現場スタッフのモチベーションを高め、医療の質が高くなるように、私たちが自己改革し行動変容をおこななければなりません。研修病院として発展する上で大切な条件は、私たちは臨床医であると同時に、裾野が広く、レベルの高い研修医を育成する教育者でもあるという意識改革を行った主治医を含む指導医をたくさん養成することです。このような指導医は国

民から信頼される研修医・臨床医を育成することに喜びと誇りを持ち、研修医にやる気をおこさせ、同時に自分自身の診療能力も高めていくことに楽しみを持つてているはずで、「On the job training (OJT)」「あるいは、「教えながらともに学ぶ」という基本姿勢のもとで、研修は「屋根瓦方式」で行われるのが望ましいと思います。そのためには、地域住民のニーズに答えて、それぞれの医療圏内で各病院の機能区分を明確にし、各年代で一定数の医師の確保をしながら医師の交流を開かれた場所で行っていくことが要求されています。地域住民のニーズと、医療機関・医療従事者のニーズとは同じ物でなければなりません。

4、まとめ

研修医に選ばれる病院になれるかどうかで、病院の将来が決まるといつても過言ではありませんので、研修医と指導医がともに成長していく研修システムを工夫し構築しなければなりません。良き臨床医は、良き教育者であり研究者でなければなりません。指導医の教育能力・指導能力は臨床技能以上に重要な因子です。指導医の意識改革・自己変容なくしては良き研修医は育成できません。また、指導医の評価なくしては研修医の評価は困難ですから、年二回開催しています指導医養成講習会に積極的に参加していただき、自己改革をして行動変容を実践するようにお願いいたします。第二回の香川大学医学部附属病院卒後臨床研修指導医養成講習会が八月七日と八日の二日間で行われました。参加された先生方は、指導医のあり方に問題提起され熱心な討議がなされ、意識改革の必要性を感じていただきました。今後、自己変容していただき、より良き臨床医、指導医として、地域住民や研修医ならびに私たちに成果をフィードバックしてくださることをお願いしまして、参加



(画像：香川大学医学部ホームページから転載)

された先生方に感謝しお礼を申し上げます。公正な評価なくしては進歩がありませんので、第三者機構による指導医と研修医の評価システムを構築していく方向で準備しています。従って、今後定期的な研修状況をお知らせいたしますので、同窓会の皆様方の忌憚のないご助言、ご意見をお願いいたします。

平成十六年八月十日

第一回 科長・研修医・同窓会三者懇親会

開催報告

讃樹會理事長 安岐康晴

日時 平成十六年五月二十七日(木) 一九:三〇

場所 割烹「こいし」

参加者 科長 第一内科 石田俊彦先生

(順不同) 第二内科 河野雅和先生

第一外科 前田肇先生

泌尿器科 箕善行先生

形成外科 井川浩晴先生

研修医 第一内科 新谷高理先生 吉本卓生先生

第二内科 黒住知宏先生 水川瑞紀先生

第三内科 野村圭先生 吉武晃先生

第一外科 藤田博崇先生

第二外科 森奈都美先生

泌尿器科 加藤琢磨先生

形成外科 玉井求宜先生

同窓会執行部 名誉会長 濱本龍七郎

会長 高橋則尋

理事 安岐康晴

事務局長 乾政志

平成十六年四月より、新しい卒業研修プログラム（厚生労働省の指導による）が開始されたが、その前段階として、平成十四年より十七期・十八期生が入局ローテート方式で研修を受けた。現研修制度に対して同窓会員である研修二年目の十八期生が、一年を終えた現時点でどのように考えているのか、また科長の方々がどう思われているのかをざっくりと話し合うという趣旨のもと、第一回科長・研修医・同窓会三者懇親会が同窓会主催でこの度開催された。私、第二内科安岐が不慣れながら、司会・進行の大役を仰せつかった。ご多忙にもかかわらず五名の科長にお集まり頂けたため、活発な意見交換を行うことができた。当日は、科長の横に研修医が配置されるようにして自由に話し合えるように留意した。同窓会執行部の紹介、科長の紹介、研修医の紹介のあとに、高橋会長の挨拶があった。会長三期目ということでこれまで以上に会として積極的に意見を述べていきたいという話があり、そのためには会員の意見を積極的に聞くための今回のような会合をどんどん開催したいという考えが示された。次に濱本名誉会長の乾杯の発声があり、しばらく自由に歓談をしていただいた。その後、研修医一人ずつに自己紹介と研修を終えての感想を順番に述べてもらった。一年終えてある程度の自信がついた反面、まだこれから努力、修業をしなければならないというような意見が多くみられた。ローテート研修については各科の特徴を生かした研修が大変勉強となっているとする反面、期間がやや短いのではといった意見もみられた。

次に、石田研修センター長から現段階における研修のコンセプトおよび状況について説明を頂いた（詳細は別項参照）。基本としては考える研修ということにウエートを置いており、研修をしていて疑問をもった事柄について自分なりに勉強した上で指導医に



尋ねること、その理解を深めていくことが重要であるということであった。次に各科長の先生方に順番に貴重な御意見を頂戴した。井川先生からは、研修は技術的なこともさることながら、礼儀作法をまず学び人間性を磨き、病気を直すという姿勢ではなく、人間を直させていただく、学習させていただくという姿勢で取り組んで欲しいという御意見を頂いた。筧先生からは、本大学の研修は卒業生が中心となっていることより、自分の大学を盛りたてていこうという気持ちを大切にしたいというお言葉を頂いた。前田先生からは先生御自身のインターン時代の貴重なお話をして頂いた。先生は聖路加国際病院でインターンを経験されており、レジデントとペアで厳しい研修を受けられたとのことであった。基本的には本人が何をやりたいのかというモチベーションと自分から学ぶ姿勢が大事であるという御意見であった。また河野先生からは、システムがどうこうという問題より、まず自分の向上心が大事であり、冷や汗をかいて、修羅場をくぐって初めて一人前になるわけで、そのためには先輩がやっている技術（例えば心エコー）を盗む位の気持ちを持って欲しいという御意見を頂いた。次に今回の懇親会の為に事前に研修医に対して実施していた当院の研修システムについてのアンケートの集計結果について発表した。まず、全体的には約七割に近い研修医が概ね現在の研修について満足を得られているようであった。勤務時間についても今くらいがよいとの意見が多かった。ただ、細かい点ではいくつかの問題点が挙げられていた。科による指導体制の差ある程度はやむを得ないと思うが、受持ち患者についての不満（かたよりがある等）、あまりいろいろいな手技をやらせてもらえなかったなどである。しかしながら、今年度から始まった新制度への移行期であった事などを考えるとまずまずの結果ではなかっただろうか。今回はお忙

しい中にもかかわらず、各分野から科長及び研修センター長が会の趣旨に賛同頂いてご参集頂けたおかげで、会員として意見を述べる事ができ、各科長の先生方の貴重なご意見や若かった頃のお話を聞くことができ、大変有意義であったと考えている。今後同窓会としてもこのような形で研修医の意見を聞くだけでなく、さらに指導医の話、中堅クラスの先生のご意見など、いろいろな形で懇親会を開催する事で会員の意見を吸収することができて、ますます会員の方々の待遇向上に繋がっていくと考えている。第一回ということでも不案内も多かったことを謝罪してこの項を終えたいと思います。今後とも科長の皆様の御指導御協力と会員の皆様の御理解を頂けますようよろしくお願い申し上げます。

懇親会参加研修医感想

第一内科 吉 本 卓 生

まずはじめに、今回このような場を設けてくださいました関係者各位に厚くお礼を申し上げます。今回各科科長の方たちや同窓会関係の方たちと話をする機会をいただき、自分たち以外の方たちが我々を含めた研修医に対する研修のあり方についてどのように考えているか、その一部でも聴き、話し合うことができたこととても参考になり、私たちのこれからについて考える材料を得ることができました。本当にありがとうございました。

第二外科 森 奈都美

二〇〇四年五月二十七日卒後臨床研修についての二年目の研修医と同窓会との話し合いに参加させていただきました。開業医の先生方を含む、香川大学の先輩方の率直な意見を聞くことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

私達は卒業前に自分達の進むべき道を決め、そこにプラスする形で何を学びたいか、自分たちで考えて研修先を選びました。ですから目的を持って学ぶことができますし、研修先の先生方も、必要なことを漏れなく教えて下さいます。私は第一外科で半年研修し、現在第二内科で研修中ですが、非常に良い勉強と経験をさせていただき、自分の将来にとってとてもためになる制度であると感じています。ただ、研修前と実際に研修を開始した後では、考え方や希望にも若干の違いが出てくるため、変更を希望する場合にどうするかということが問題であると思いました。

今回の会合で感じたのは、多くの先生方が、たくさん時間と労力を割いて、我々の研修をより良いものにしようと努力して下さっているということです。そのことに感謝しながら学ぶとともに、自分たちのためにも後輩達のためにも、このような話し合いを今後も積極的に行って行く必要があると思いました。



特集2

教授の横顔

神経機能形態学 竹内 義喜教授



日時・平成十六年三月十六日午後一時～二時

於・管理棟三階応接室

出席者・竹内教授、濱本名誉会長、

安岐財務委員長

濱本 本日はお忙しいところおいいただき、ありがとうございます。

竹内 いえ、同窓会の方と話す機会があればいいと思っていました。

濱本 先生は平成元年にこちらにいらっしやったのですが、大学の印象はいかがでしょう？

竹内 一口でいえばヘド口、つまり古い大学のドロドロしたものが何も無いですね。さらに今回の統合もあり、あとは意識だけだと思います。

濱本 学生はいかがでしょう？

竹内 どの大学でも言えることですが、センター試験で足切りなので、いわゆる豪傑がいなくなりました。言うことは良く聞くようになったが、少しモチベーションの低い人が入

てきている傾向ですね。この大学も多分に漏れず、ですね。真面目に小粒ということでしょうか。卒業生はいかがでしょう？

竹内 ほとんど臨床医なので、私とコンタクトをとっている人が

少なく何ともいえませんが、卒業生の歩留まりが悪いのは何とかしないとイケないですね。卒業生に魅力のある大学作りをしないと。何が魅力かといえば、一つは県内の病院に就職できるか、大学に残った時に夢が持てるか、上にあがることを含めて。

濱本 大学に残れば十年後には中心人物になっていてもいい頃ですね。

安岐 香川の場合、学生は全国から来ています。地元出身はある程度地元に残るので、地元中心に採るといいのではないのでしょうか。

竹内 それができないので、他県から来る人よりもっといい学生も医大に送ってもらおうよう高校めぐりをしています。実際、効果は出ています。推薦は県外よりはむしろ県内を多くした方がいいでしょう。推薦合格者の追跡は冊子になっているので、資料として見る事ができますよ。

濱本 学生への還元の仕事は今考えています。臨床医や開業医を呼んで、学生と懇談会を持つとか。

竹内 その人の人生がかかっているわけだから、その人を育てることに責任があります。留学やペーパーなどできるだけのことをしたいと思っています。それを毎日考えて、一つ一つ踏まえて育てていっています。しかし、育てるといっている時間がかります。目標を設定して、日々努力していかないとイケない。こちらも考えているのですが・・・。

濱本 卒業生の中に教授が欲しいと思います。その前段階でまず

竹内

助教授が欲しいのですが、ここ数年助教授が育っていないようです。どうして助教授ができていないのでしょうか。

まず、卒業生が残らないと始まらないですね。辛いこともあるかもしれないが、大学がどうのこうのというだけではなく、卒業生の意識改革も重要です。この大学を背負うという意識が残って欲しい。外に出て、やはり病院を背負うという意識が必要です。最後は、歯を食いしばって残って欲しい。あちこちの講座で励ましあって。少ないと、ますます残りにくくなるかもしれないのですが。

まずは基礎から教授が出るのが普通のパターンですね。大学にこだわる方がいるし、どこでもいいという人もいます。ここでないといけないという人は仕方ありません。熱意、学術面が重要です。気が合うかどうかはファクターではないですよ(笑)。ペーパーを作らせないと負けます。ペーパーに詰まったら援護射撃をしてあげる。活動も支える。それがないと負ける。負けるような教授選をしようがないでしょう。卒業生を教授、助教授にかかえている場合、この大学で教授選で落ちるのは身につまされません。

教授選考委員会の構成から同窓会が入るといいのです。他の学部と医学部では教授会の構成がかなり違ってきます。委員会の構成員が教授だけとは限らず、助教授もいます。みんなの意見をどういう風に反映させるかということなんです。教授会に助教授や講師まで入るのが難しいなら、オブザーバーとして選考委員会に入るのがいいかと思えます。

「参加」というのは、意見を述べると考えるか、オブザーバーとして入るか、いろいろあります。どうするのが一番いいかを考えるべきです。

選考委員の席というのは、オブザーバーとして参加するだけでも情報が得られます。

現在、

何らかの委員会がいろいろあります。例えば正式な名称は知らないが、将来運営委員会？など今後どう大学を運営していくかといった委員会に、加わっていくのもいいことだと思います。

安岐

教授選考という場合、香川では教授会が決定するのですが、名古屋ではいかがだったのでしょうか。

竹内

実際、私は助教授の時に選考に入りました。教授選考委員会のメンバーになるのが不可能でも、オブザーバーとして加わるというように、やれるところから変えていけばいいと思います。

濱本

どういう構成でしたか？
助教授、講師、助手、だったかな？

竹内

選考委員が特定のグループに固まるおそれがないでしょうか？

濱本

ひとつに固まるということは、あまりないですね。選考委員に入れば面白いでしょうね。

竹内

意見の幅はできます。それを受け入れられなければ、オブザーバーとして。

濱本

教育、研究についてはいかがでしょうか？

竹内

教育は、将来の医師を育てるわけだから、人間的にも基礎を作り、医学とは何かということを理解してもらおうと求めていきたいと思えます。

研究は、それぞれフィールドがあるので、できるだけ研究がやりやすいようにサポートできればいいと思います。自分のフィールドをのばすように考えてほしい。それに足りないことがあれば助けたいと思えます。

委員会やチュートリアルなどのSavyが多く、自分が時間的

にできないこともあるので、助教授は代わりになってあげなければいけないですね。そのためにペーパーができないとなれば能力不足ということに・・・(笑)。留学の時も自分のフィールドで行く所を探すようにということ、伊藤君も三木君も自分で探しました。留学すると雑用のmanがないし、あまり長い時間研究していかないようでも案外ペーパーをたくさん作れるんです。そういうことで留学を勧めるんですけれども。教授のフィールドを全部やらせる教授も多いですし、講座のフィールドを全部やらせるもありますが、私の場合は、お互いの専門を深く究めていければという思いでいます。

濱本 基礎系の卒業生が同窓会の役員をして欲しいのですが、先生からも勧めただけだと思えます。

竹内 私は少しでも魅力のある大学にして残すことが仕事と思っていますが、大学で、我々がいるのは短期間です。大学のことを真剣に考えるのはやはり同窓生です。

濱本 母校を愛しているのは卒業生ですから、是非、先生に喝を入れていただきたいと思えます。

コラム：ベントリムの「教授の横顔」

二期生の伊藤正裕教授がこの教室から出たということは、素晴らしい事であり、竹内先生の力量だと思います。教授が自身の教室から教授をつくるという事に対する教授としての強い誇りを持たれており、教育・研究に対して並々ならぬ意欲と精神力を持されていることに感動致しました。

一枚目に加え淡々と語られるお言葉には大変惹きつけられる魅力があり、今後もしも助言を仰ぎたいと存じました。

同窓会名誉会長 濱本龍七郎（昭和六十一年卒）

形成外科学 井川 浩晴教授



日時・平成十六年六月二十四日午後一時～二時
於・管理棟三階応接室
出席者・井川教授、濱本名誉会長

濱本 先日はお忙しい中、科長・研修医・同窓会の三者懇談会にご

参加頂き有難うございました。

井川 こちらこそ有難うございました。

濱本 先生が最後の香川医科大学の教授に就任されて約十ヶ月が過ぎた訳ですが、香川大学医学部の印象は如何でしょうか？

井川 そうですね。今から考えると北海道大学の時は北大というブランドで殿様商売と言いますか、待っているだけで患者様が来られました。こちらは周りに数多くの競争相手が奔きあって、関連病院もあまりない現状では腹を括ってやらないと生き残れません。文部省の言いなりや東大・京大・阪大と同じ事をしていてはダメですね。私は本来のんびりした性格で、自分が率先して先導するより、周りを立てながら調整していくタイプですが、変革期ですので、それに見合った手法を取らねばならないと思っています。

濱本 医局運営についてはどうお考えでしょうか？

井川 組織が伸びるかどうかは、上に立つものが下のものに未来に何を提示できるかにかかっているのではないのでしょうか。できるだけシンプルな目標を分かりやすい言葉で伝ええない

といけないと思っています。三年後、五年後の姿を思い浮かべながら、今なすべきこと淡々とこなしていく。明るくて風通しのよい組織を作りたいですね。

濱本 なるほど・・・。

井川 若い人にやる気を出させるには、あまりあせいこうせいといわないでそれぞれの個性や夢を潰さないで伸ばしていけるようにと考えています。それぞれがそれぞれの夢を紡いでいくような「夢工場」のような組織作りをしたいと思います。

濱本 個性を潰さないで伸ばしていくという事は組織の中では難しいことですね。

井川 そうですね。個人がそれぞれの夢や目標を持ってそれぞれの方向を見ていながら、目標を共有できることが組織の姿として良いのではないのでしょうか。多様性があることが組織の生き残りを考える上で重要なことだと考えます。

濱本 よく分かりました。それでは、学生にはどのような印象をお持ちでしょうか？

井川 北大に比べると良い意味で学生と教官が密着していますね。自分が学生の頃は構って貰えませんでしたからね。ある意味専門学校のようにも見えますね。

濱本 新設医大の特徴の一つかもしれませんがね。

井川 そうかもしれませんが、濱本先生達の初期の頃の学生は目的意識を持っていたように見えます。今は中だるみの時期なのかもしれません。

濱本 教育に関してはどうお考えでしょうか？

井川 年に二、三人が入局してきますが、その人達を充分育てていきたいと思えます。

濱本 教育には学部教育と卒後教育がありますが、やはり全人教育が一番大切だと思います。私はシユバイツァーになろうと医師を志しました。公休を頂いて後進国に学生を連れて行き、ボランティアで奇形や外傷などの形成外科的治療を行ないたいと考えております。そこで学生が患者様に感謝され本来の医者喜びを感じ、モチベーションを高めてくれればと思っております。

井川 それは素晴らしい事だと思います。臨床についてはどうでしょう？

井川 勿論、従来の先天異常などの診療を行いながら、今後は美容外科を大学病院でやっていくべきだと思います。大学病院で行うことで、患者様は美しくなりたいという人間としての自然な欲求を堂々と表現できるようになるのではないのでしょうか。今世紀の形成外科は、自分の組織の犠牲を最小限にし、組織工学、再生医療、人工物などを複合的に利用する再建手術をめざすべきであると考えております。大学病院の行う美容外科もそうあるべきと考えます。患者様のニーズがどこにあるのか謙虚に見据えることが大切であると思います。まわりでも川崎医科大・徳島大学が形成外科を形成外科・美容外科と改めました。法人化となった今、是非香川大学も参入すべきであると思います。

濱本 また、先天異常などについては、産科・小児科と連携してチーム医療体制が不可欠であると考えます。その為には関連各科が良い関係を持つことが必要です。大学が患者様をよべる科を作っていかなければ病院の将来はありませぬ。開学二十年を経過しましたが、まだ教授が卒業生から誕生していないのですが。

井川 そのうちに出てきますよ。まず、基礎の教授から出てくるのではないですか。良い人を選ばないと。卒業生だから誰でも良いといったのではいけませんね。後に続く人に夢を与えていかないと。

濱本 本当にそうですね。今後、大学はどうなっていくとお考えでしょうか？

井川 国自身が国立大学やその附属病院をどの方向に持っていくかをまだ見切っていない状況で、法人化という荒波に乗り出さないといけません。また、そんな中で、診療・教育・研究のいずれにおいても成績を上げよという至難の課題をクリアすることは大変なことです。しかし、とにかく、どうしたら病院が発展して、大学が伸びていくのかということを考えていけば進んでいく道は決まっていくと思います。

濱本 そうですね。どんどん発展していきますね。本日は興味深いお話を有難うございました。是非またお会いしたいと思います。

井川 こちらこそ有難うございました。今度ともよろしくお願います。

コラム：セフトロコソの「教授の横顔」

北海道大学という雄大な土地にある大学から赴任されただけあって、大きな包容力のある人柄です。

美的感性は超一流で形成外科医としての感性に加え、全人的な医療人としての素養をも兼ね備えられた人間性には非常に感激致しました。

また、先生の「己の如く人を佑く」の人生観に深く感銘致しました。

今後とも色々とお話を聞かせて頂き、私も美的感性を磨きたいと思っております。

同窓会名誉会長 濱本龍七郎（昭和六十一年卒）

腫瘍病理学 今井田 克己教授



日時・七月十四日(水)午後一時～二時
於・管理棟三階応接室

出席者・今井田教授、濱本名誉会長、
安岐理事長

濱本

初めまして、一期生で同窓会の名誉会長をさせて頂いて
おります濱本です。こちらは大学院卒で同窓会では理事
長兼財務委員長の安岐先生です。本日はお忙しい中、お
時間を頂きまして有難うございます。

今井田

こちらこそ、初めまして。よろしくお願ひします。

濱本

先生が、教授に就任されたのは平成十三年の九月ですか
ら、約三年経たれたわけですが、香川大学医学部の印象は
いかがでしょうか？

今井田

そうですね。学生の印象で言いますとよい意味でも逆の
意味でも非常にクラスに団結力があると思います。また、
学生と教授の敷居が低く、気楽に話ができますね。そう
いったことはよいと思いますね。

濱本

大学そのものは？

今井田

研究面に関しては、私が主に行っている研究が他の方と
あまり競合しないので共同施設が使い易いと思います。
一番驚いたのは大学の中のネットワークの充実ですね。
個々の端末ごとにグローバルアドレスを取っているのは
すごいですね。

濱本

教室の人手は足りているのでしょうか？

今井田

卒業生も入ってくれましたし、外科からやる気のある人
が回ってきてくれているので、非常に助かっていますね。
研究以外のことが結構多いのではありませんか？

濱本

そうですね。学生の教育、大学院生、教室員の研究指導等

その他、入試委員長等医学部としてのことがありますし、病
院関連では病理解剖を分担して担当しています。病理解
剖は、前の大学はウィークデイだけの八時～五時体制
だったんですが、こちらは二十四時間体制なので大変で
すね。

濱本

それは大変ですね。香川医科大学医学部医学科として設
立され、開学して二十年を少し越えた新設大学ですが、二
十年を経過した大学としての評価はいかがでしょうか？

今井田

他の大学を知らないのですが比較の仕様が無いのですが、変
なしながらみがなくて良いのではないかと思います。

濱本

先生のご出身大学である名古屋市立大学と名古屋大学と
の関係はどのようなものでしょうか？

今井田

すいません。他の大学のことは分からないのですが、同
じ市内にあるのですが、どっちかと言うとうまくやって
いこうというよりは、どうしても市大のほうが、名大にラ
イバル意識があったのかもしれないですね。

濱本

学生の教育・研究についてはどうお考えでしょうか？

今井田

学生は真面目で非常に熱心ですね。大学院にも是非入っ
てもらいたいと思います。

病理は基礎医学に分類されますが、臨床と基礎の中間的
なものです。必ずしも臨床から離れるわけではないし、
かといって、患者さん、人との直接的な関わりが苦手だと
感じる人は病理学は良いのではないかと思います。

濱本 今年から非入局ローテートとなって二年後に入局となるわけですが、二年後、入局者が居ると思われませんか？

今井田 基礎系全体で、毎年一学年に一人で良いから入ってほしいと思います。医学部は必ずしも臨床だけではないですよ。例えば九十五人いたら一人ぐらいは性格的に臨床は合わないっていう人もいるでしょうから、そういった人は出来れば病理にきて欲しいですね。

濱本 卒業生が教授になることはいかがでしょうか？

今井田 非常に良いことだと思います。是非、大いになつてもらいたいと思いますね。

濱本 卒業生だからといって教授になるのではなく、それに似合った人がなつていってほしいと思いますね。

安岐 先生が病理学を専攻されるきっかけは何だったのでしょうか？

今井田 学生の時に配属の形で病理に顔を出していたら、たまたまそこに先輩が居て楽しかったですね。で、卒業の時に内科が病理を迷った時、内科の教授が大学院生は基礎の研究をしっかりとやれという方針だったので……。まあ病理が自分には合っていたのでしようね。

安岐 留学は？

今井田 大学院を出てからアメリカに行きました。研究面でのプラス面はもちろんです。いろいろな意味で視野が広がっていますね。学生のみなさんにもそんな経験をして欲しいので、大いに留学をして欲しいと思います。

濱本 先生は学外活動としてはどんなことをなさっているのでしょうか？

今井田 内閣府の食品安全委員会の専門委員をやっている月に二回は東京に行っています。交通に関しては名古屋にいた頃より便利になりましたね。香川を十時頃出て、午後からの会議に出席出来ますから、ほとんどの東京での会議は日帰りしています。意外と香川は便利が良いですね。

濱本 そうですね。本日は、お忙しい中本当にありがとうございます。

濱本 良かったです。これからもいろいろなお話を聞かせて頂きたいと思っています。

コラム：セントジョンの「教授の横顔」

伝統ある第一病理学の二代目教授の今井田先生とは、就任後三年も経たれるのに、私としては初対面でした。

病理学の教授のイメージには遠く、たいへん明るい気さくなお人柄には安心いたしました。おそらく、大学外での仕事をなされたご経験が多いからでしょうか。先生のもとで、病理の勉強を一度はしてみたいものだと感じましたし、今後とも多くのお話を聞かせていただきたいと感じました。

同窓会名誉会長 濱本龍七郎（昭和六十一年卒）

香川大学医学部医学科同窓会讃樹會

国外留学助成金公募のお知らせ

香川大学医学部医学科同窓会讃樹會では、本学の発展に寄与することを目的として、本学研究者の国外留学に対して以下の要領で助成いたします。

- 対象：香川大学医学部医学科同窓会正会員の一年以上の国外留学
- 助成額：数件程度、総額一〇〇万円以内（一期締切分対象）
- 申請方法：所定の申請書（同窓会事務局に申請して下さい。）
- 締め切り：平成十六年度第二回 平成十六年九月末日
平成十七年度第一回 平成十七年三月末日
- 提出先：〒七六一 〇七九三
香川県木田郡三木町池戸一七五〇 一
Tel & Fax: (〇八七) 八四〇 一二九一
e-mail: dousou@kms.ac.jp
- 審査方法：讃樹會學術委員会の審査選考に基づき、理事会において採否を決定する。

香川大学医学部医学科同窓会

讃樹會会長 高橋 則尋

學術委員会

委員長

西山 成

平成十六年度第一回

国外留学助成金選考結果報告

學術委員会における審査をもとに、理事会では下記の通り平成十六年度第一回香川大学医学部医学科同窓会国外留学助成金の交付を決定いたしました。

- 助成対象者：萩池昌信（平成五年卒）香川大学医学部第一外科
留学先機関：Cedars-Sinai Medical Center, Center of Minimally Invasive Surgery
- 留学期間：平成十六年七月～平成十八年六月
- 研究課題：意識下ウサギ心タンポナーデモデルにおける腎交感神経活動の二相性変化のメカニズム
- 助成金：三三〇、〇〇〇円
- 助成対象者：松原啓介（平成九年卒）香川大学医学部第二内科
留学先機関：カロリンスカ研究所
- 留学期間：平成十六年七月～平成十八年六月
- 研究課題：腹膜透析
- 助成金：三三〇、〇〇〇円

先生方の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

ニューオリンズより

浅井 竜彦
(平成八年卒)

同窓の皆様におかれましては日々ご清祥のことと存じ上げます。今回は、浜松医科大学眼科科学教室、堀田喜裕教授の御高配により、米国ルイジアナ州立大学LSU(Louisiana State University) Eye Centerに約二年半の予定で研究留学する機会を得たのでご報告致します。

LSU Eye Centerはニューオリンズの町中にあります。ここはアメリカの深南部、ミシシッピ川の河口の町です。ジャズの発祥地として有名なだけでなく、フランスとスペインに統治された時代背景があり、アメリカでありながらフランスの文化が色濃く残った町です。観光地として、また料理自慢の町としてアメリカ人には絶大の人気があり、医学系の大きな学会の開催地になることもしばしばです。ニューオリンズは別名Big Easyと呼ばれ、町の中心部フレンチ・クォーターでは年中何かしらのイベントが行われています。毎年二月から三月初旬は、Mardi Grasというお祭りが開催され、多くの観光客が押し寄せます。フランス語でFat Tuesdayという意味の、アメリカ最大のお祭りです。リオのカーニバルに匹敵する規模だそうで、少し毒々しい色調ですが紫、緑、金色がメインカラーになっています。町中至る所でパレードが催され、色とりどりの山車からはメインカラーの派手なビーズを投げまわっていました。私の二人の娘達も、このビーズを集めるのが大好きで、我が家の押入には処分に困ったビーズが山のように積まれて



LSU Eye Centerの目玉クリスマスツリーの前にて

いる始末です。当地の気候は、熱帯並に暑いところで、冬でも日中は半袖シャツだけで過ごせる日も多く、二月はお祭りをするにはちょうどいい季節なのかもしれません。一方、夏の暑さは尋常で



ニューオリンズ近郊のオークアレイプランテーションで家族と共に

はなく、六月から九月は特に殺人的で、日中は外を歩く人が全くいなくなることも珍しくありません。

さて、ニューオリンズのご紹介はさておき、こちらでの仕事について簡単に紹介致します。ボスはDr. Kwonという韓国人の免疫学者で、T細胞補助刺激分子の1つである4-1BB (CD137) 分子の研究者として知られています。USCと韓国の両方にラボを構えていて、アメリカと韓国に年間半分ずつ滞在しています。US Eye Center はヘルペス及び角膜関連の眼科研究で特に有名ですが、私のラボは眼科免疫の研究が主体です。現在のテーマは、ヘルペス性角膜炎の免疫研究が主ですが、マウスでのアロ角膜移植モデルでの移植片の免疫学的研究、実験的自己免疫性ブドウ膜炎モデルマウスを用いての、やはり補助刺激分子の機能解明を行っています。こちらにいる日本人留學生の先生にいろいろ助けて頂きながら、無我夢中で研究をすすめております。早いもので、こちらでの生活も一年半が経とうとしています。おかげさまで、今年四月、ワシントンで開催されたIB (Experimental Biology) 二〇〇四に角膜移植に関する報告をすることが出来ました。現在は自己免疫性ブドウ膜炎の研究と角膜移植での成果を投稿すべく準備を進めているところです。あと約半年から1年滞在予定ですが、様々な人々に支えられて、留学というチャンスを得たことを感謝すると共に、今後の臨床と研究に少しでもプラスになる何かを得たいという思いです。

最後になりましたが、今回の留学に際しまして、香川大学医学部同窓会讃樹會より留学助成金を御交付いただき、同窓会役員理事および同窓会の皆様方に心よりあつく御礼申し上げます。

⑨ 開業医だより

ぬまはら皮膚科（二〇〇三年五月十六日開院）

沼原利彦（昭和六十一年卒）

沼原紀予（平成四年卒）

香川県三豊郡豊中町比地大二六二一



医院全景、後に見える山が七宝山です。

第一期生として一九八〇年に入学後二十三年間をすごした香川県医科大学を辞し、第七期生の妻と共に、二〇〇三年五月十六日香川

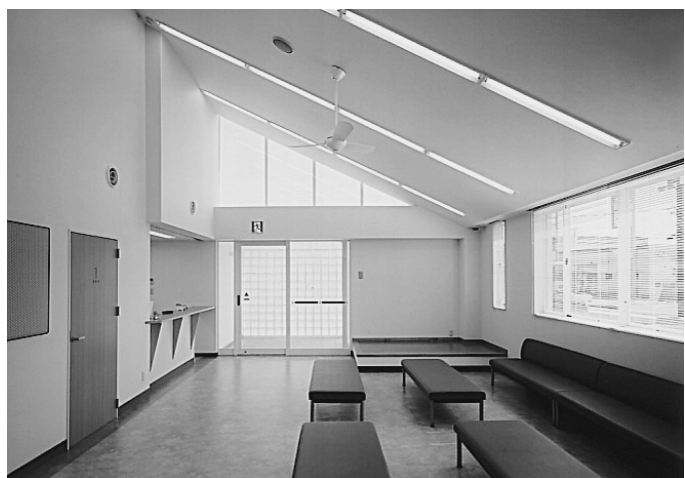
県三豊郡豊中町比地大にてぬまはら皮膚科を開院しました。

開設地として選んだ豊中町は、香川県の西部三豊平野の中央に位置する総面積二十平方km弱・人口一万二千弱の町です。東と北は高瀬町、西から南にかけては仁尾町・観音寺市と、南東は山本町と接しています。町土の三分の二は肥沃な水田地帯で、医

院のまわりも、水田・玉葱畑・ブドウ栽培などの田園風景になっていません。

医院設計にあたっては、市街地での開業では実現の難しい、落ち着いた空間をめざしました。駐車場や診察室の空間を広くとつてあるのもちろんのことですが、待合も床面積約五十平方m・天井も高くしてあります。また、車椅子での来院も考慮し、洗面所も男女別で、診察室並みの空間（&補助手すりの採用）にしてありますが、受付直後に利用される患者様がとて多く、評判が良いようです。

「ゆったりした空間」と共に、「ゆったりした時間」をとつた診療したいと願っています。「ゆったりした時間」をとつた診療と「待ち時間の短縮」は相反するところがあるので、夕方や土曜日に集中豪雨的に患者様が集中する皮膚科診療では悩めるところです。それでも、少しでも話を聞いて、病気や治療の説明をするためには、一人あたり七〜八分程度の時間は必用と考えております。



待合は、床面積約50平方メートル、天井を高くして、ゆったりすごせる空間にしています。



洗面所は男女別（写真は女子洗面所）、車椅子の方も楽に使っていただけるように広いスペースをとり、補助手すりを採用しています。

Doctor's Good Will (<http://www.dgw.jp/>)という電子カルテシステムを採用しているのも当院の大きな特徴です。現在、サーバーマシンはアップルコンピュータのXserve、クライアントマシンは、第一診察室がPowerMac G5 & 二〇インチシネマディスプレイ、第二診察室が二〇インチiMac、受付に、一五インチiMac、一七インチiMac、Bookのシステム構成になっています。現在の電子カルテの短所は、忙しくても紙カルテのように記録や診療行為を書きとばすことはできませんから時間がかかること、家族で受診した時などに複数のカルテを見比べることが難しいこと、時々システムの不調で診療が中断する、停電になったら診療休止・・・などでしょう。長所は、カルテ庫がいらない、カルテの検索が簡単、今のノートブックパソコンなら全患者のデータをいれて閲覧することも可能・・・です。患者様にとっての一番のメリットは、目の前で、日本語で病状や説明の記録がされていくこと、一種の情報開示効



第二診察室、電子カルテシステムを採用、クライアントはiMacです。

ネットホームページ
をご覧ください。

<http://www1.quolla.com/numahara-hifuka/> を

果がとても大きいようです。
本院は、県道岡本高瀬線沿い、JR予讃線の比地大駅から徒歩二分、高松自動車道「さぬき豊中IC」から車で5分少々の場合にあります。近くおいでの際には、どうぞお立ち寄りください。当院の地図、最新の診療時間や、休診情報は、インターネット

世界の田舎より

在ポーランド日本国大使館 一等書記官兼医務官

伊東 達夫
(平成元年卒)



早いもので卒業後十五年の月日が経ち、今回原稿のご依頼を頂戴して、大学時代を非常に懐かしく思い出しています。私は現在、ポーランドのワルシャワにある日本大使館で医務官として働いています。

医務官は主に開発途上国にある日本大使館や総領事館で、館員や家族の健康管理、医療事情調査、在留邦人への医療相談等を行うのが主な業務で、現在は世界約七〇カ国に配置されています。私はポーランドと隣国リトアニアを担当しています。診療、相談内容は多岐にわたるため、自分の専門外のことも多く、各方面で活躍されている香川医大の同窓には大いにお世話になっています。医務官の業務も多様化してきており、海外で日本人が巻き込まれた事故、例えばえひめ丸事件やイラクでの外交官殺害、人質事件、北朝鮮への首相訪問などにおいて、現地ですらに被害者家族の精神的ケアなどにもあたっています。

私は平成元年に卒業後、大阪大学第一内科に入局し、以後、堺にある大阪労災病院で足かけ十二年お世話になりました。当時、循環器領域では心カテ、PTCAなどのインターベンション治療へ急激に変化していった時期で、一年目の研修医から設備の整った最前線の病院ですと働けたことは、循環器医である私にとっては非常にラッキーで





白ナイル（手前）と青ナイル（奥）の合流点

に学ぶことができました。無事に二年二ヶ月を過ごし、平成十四年八月にポーランドに移りました。五月にEUに加盟したとはいえ、まだまだ貧しい国ですが、さすがシヨパンの国だけあって、文化的には豊かさを感じます。冬はマイナス二〇度近くになることもありますが、室内はどこも暖かく、そういう意味では日本の冬より過ごしやすいと言

あったと思います。また、この労災病院の業務の一つとして、途上国を巡回してそこで働く邦人の健康相談をおこなう業務があり、その折りに今の職業を知りました。学位取得を一つの区切りとして、平成十二年に大阪労災病院を退職し、外務省に入省しました。最初の任地はアフリカのスーダンで、妻と当時二歳と八歳の二人の娘と共に赴任しました。スーダンというと、「内戦」という言葉がすぐに思い浮かびましたが、アフリカで最も大きい国であり、先輩医務官には「香港で内戦をやっている、大阪に住むようなものだ」といわれました。実際、首都カルトゥームの治安が比較的良好には驚きました。一年の大半の気温が五〇度近くにまでなり、本当に何も無い国でしたが、人は優しく、娘達は非常に気に入っていました。ここでは医療衛生分野での経済援助の手伝いもさせてもらい、そのおかげで今のアフリカが抱える問題の複雑さを間近

う一面もあります。ここでは共産主義時代の影響の根深さを感じ取っています。特に医療におけるその負の遺産は大きく、まだまだ発展途上といえます。

昨年のイラク戦争勃発の折には、アフガニスタンのカブールに一ヶ月出張していました。現在、アフガンでは復興支援のためにNGOなど一〇〇名近い日本人が活動されており、大使館員とそれらの邦人への医療支援がその目的でした。カブールの空港で、錆び付いて動かないターンテーブルを見て、即座に荷物出口に潜り込み、自分のスーツケースを引っ張り出した自分の適応能力の高さに、思わず苦笑してしまいました。

途上国で生活していると、日本の良さと、戦後に製造業が確立してきた日本ブランドの凄さを再認識すると共に、逆に日本が失ってしまったもの、日本には無いものがよく見えるようになります。まだしばらくは色々なものを見てやろうと思っています。

我々の仲間が自分の足で稼いだ情報をまとめた、「世界の医療事情」が(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/okko/medi/>)ご覧になれます。何かの参考にしていただければ幸いです。

最後になりましたが、皆様の御健勝と香川医科大学同窓会のみますの「発展を「世界の田舎より」お祈り申し上げます。



ワルシャワのシヨパン像

【イタリアにおけるスポーツ医学事情】

相模原協同病院整形外科スポーツクリニック担当 鈴木 英一
(平成二年卒)

五期生の鈴木です。大変御無沙汰しております。香川医大を卒業後、サッカー選手の医療に携わりたく地元神奈川県にもどり、横浜市大整形外科に入局し早十四年が経過いたしました。この間、Jリーグドーピングコントロールエスコートドクター、98よりJ2ヴァンフォーレ甲府チームドクター、神奈川県サッカー協会医事委員会委員、01Jリーグスポーツ医学小委員会委員、03に日本高校サッカー選抜チームドクター等、サッカーの分野を中心としたスポーツ医学を経験させて頂きました。今回は、03年四月より一年間、横浜市大整形外科斎藤知行教授の御配慮により、ローマ大学運動科学部スポーツ外傷学講座(Prof. Mariani)へ留学する機会を得ましたので、本稿では留学の報告と、イタリアにおける一般的医療事情とスポーツ医学現況について概観し、プロサッカーチーム“ASローマ”医療部門、イソキネティック・スポーツリハビリテーションセンター、ローマ大学運動科学部、CONIオリンピック委員会スポーツ医学センターなどスポーツ医学、医療の特色的な施設を紹介させて頂きます。

1、イタリアの医療制度

イタリアの人口は日本の約半分ですが、国土の広さはおよそ日本と大差はありません。医療制度は国民皆保険制と自由診療制の併用で、国立病院は外国人旅行者も含めてすべて薬代以外は無料

です。しかし国立病院では医療内容を含めたサービスにはかなり問題があるので、自由診療の私立病院では少々医療費が高額でも、十分な医療を求める患者が来院しています。

2、スポーツドクター制度

スポーツドクターの資格取得には、スポーツ専門医事務局に申請しますが、定員制限があり年に数人しか採用されません。(これに登録されないとプロ競技のチームドクターにはなれない。)スポーツ医学は、医学部卒業後四年間に循環器・生理学・整形外科を支柱としたカリキュラムを履修し、その後マルチチョイスの試験をうけ資格を取得することになります。スポーツクラブに入会する場合には、かかりつけの一般医が健康証明書を書き、プロ選手のケースでは、スポーツ医学の専門医(一般にはチームドクター)が証明書を書き各競技団体に提出しています。

3、ローマ大学運動科学部(The Rome University Institute of Motor Sciences: USM)

本学は私が留学中に在籍した大学です。スポーツ外傷学講座(Sports Traumatology Laboratory)に所属させて頂きましたが、主任教授のMariani先生は膝関節鏡治療の専門で、プロサッカー選手の膝外傷の診療依頼が多いことでイタリア国内では有名です。彼は一九八〇年代からプロチームASローマのメディカルアドバイザーを務め、殆どの膝関節外傷中心の手術症例を手がけてきました。フリット、ネスタ、エメルソン、アウダイールなど彼の手術で復帰した有名サッカー選手は数多くいます。今回私が教授の存在を知ったのも、“ワールドサッカーマガジン”という月刊誌にブラジル代表MFエメルソンの膝十字靭帯再建術を教授が施行し、ぴったりと六ヶ月で試合に復帰させたことが掲載されたからでし

た。その年に私は教授に連絡を入れ、見学を受け入れてもらい、ローマで一日手術見学を行ったのが本留学のきっかけでした。

しかし、この施設はいわば体育学部であり、研究教育が中心で診察、治療等が行われていません。多分、

筑波大学体育科学系健康体力学分野や、日本体育大学健康科学・スポーツ医科学系をイメージするような施設と考えられます。四学年で二、〇〇名の学生があり、将来はサッカー等のスポーツチームトレーナー、体育教師、フィットネスクラブのインストラクター、生体工学、社会スポーツ科学の研究者を目指します。スタッフは、スポーツ外傷学講座の整形外科医Margeritini助教、内科のPigozzi教授を初め何人かのMDもいますが、診療はそれぞれの施設で行っているのは日本の体育系大学や学部のMDと同じ状況です。因み



IUSSMローマ大学運動科学部

にMariani教授は、週二回手術と外来に以下に述べる別の病院で手術と診療を行っています。大学施設は、ムッソリーニが建てたビル内にあり、この中に教授室や研究室があるという感じです。大学のある敷地はForo Olimpicoといい一九六〇年ローマオリンピックの会場で使用したメインスタジアム（現在、ASローマとラチオのホームグラウンド）、テニスコート、プール、またCONI（イタリアオリンピック委員会）事務局本部ビル等が集中しており、さしずめ、霞ヶ丘国立競技場、岸記念体育会館、代々木体育館と駒沢オリンピック公園をミックスしたようなエリアです。

4、Casa di cura Villa Stuart病院

ローマ市の中心から車で二〇分、スタジオオリンピックコより五六分程の丘に上がったVia Trionfale（勝利道）という所にあります。ここで、Margeritini教授は手術と診察を行っています。午後から十例近い膝を中心とした関節鏡手術をこなし、終わるのはいつも九時から一〇時と、イタリア社会の常識としてはかなりハードなスケジュールをこなしていました。ここは、筋・靭帯・骨関節疾患を中心とした診察、手術、リハビリテーションの高度機能を持った病院で、CTやMRI、EMGのような高度検査機器から理学療法室、等速性筋力測定装置、トレーニング室、水中治療用プールまで運動療法の設備一式全てが整備されています。院内は、所謂病院とは違い、静かな雰囲気や広い個室の病室、外来廊下の壁の絵画や写真、手術風景が描かれている漫画等が飾られておりモダンで豪華な空間となっています。本病院の1回の診察料は、一五〇ユーロ（約二万円）で実費ということもあり、患者サービスは、公立病院とは異なりかなりハイレベルなものとなっています。

5、ASローマの医療体制

今回の留学で、イタリアプロリーグセリエAに所属するASローマ(トップチーム)の医療現場を一シーズンに亘り見学することが出来ました。トッティーを始めとする憧れの選手と交流が持てたこと、メディカルスタッフと専門的な意見交換が行えたことも貴重な体験となりました。ローマチームは、三人の常駐医師を配し、三名のトレーナーと一名のマッサージでフィールドケアを行っていました。トレーニングセンターには、エコーを常備し軟部組織傷害の即時診断を可能にし、レントゲン、MRI等が必要であれば提携しているVilla Stuart病院にて精密検査を行っています。ケガの程度によっては、Mariani教授による手術を受けるシステムとなっています。留学期間中も、上記病院にカフィー、エメルソン、カンデラ等が診察に行ったり、モンテッラ、ルパテッリが膝関節鏡手術を受けに行ったりしていました(幸いこれらの手術にも助手ではいることが出来ました)。治療機器は完備され、一部日本では馴染みのない機器を駆使して早期復帰に向けた治療を行っていました。また突然死の予防策としてAEDをドクターが練習ピッチに持ち込み万を期していましたが、時折忘れてしまうこともあり私が指摘する一幕もありました。

6、CONイタリアオリンピック委員会スポーツ医学センター

イタリアでは日本の体育協会に当たるものとしてCONI(イタリアオリンピック委員会)があり、すべての種目のスポーツ行政を司っています。上述のローマ大学運動科学部のある敷地内にCONIが運営しているスポーツ診療所があります。外来ブースは内科、整形外科はもとより眼科、耳鼻科、皮膚科などすべてのブースが設けてありました。非定期的に他病院の専門医が外来に来るよ



トッティーとマリアーニ教授と



病院のスタッフたちと

うで、診察室内にはボクシング、スクーバなど特殊なスポーツ種目への医学的対応が出来るような機器が備えられていました。郊外にもCONIEの運営するサッカーフィールドから野球場まで備えた広大なスポーツセンターがあり、その中にも医学科学センターがあります。ここは診療機能より研究施設という感じですが、放射線学的検査、循環器的検査と診療、整形外科的検査診療、リハビリテーション治療は常勤専門医・スタッフにより、五輪強化選手に

対して効果的に行われていました。ここでは、一般外来患者は診ないので、選手に對して十分な時間をかけての精密な治療が可能となりました。日本にもようやく二〇〇一年に、このようなコンセプトを持った国立スポーツ

科学センターが設立されたのは記憶に新しいところです。

7、イソキネティックスポーツリハビリテーションセンター (Isokinetic Sports Rehabilitation Center : www.isokinetic.com)

このセンターは、Sports Reconditioning Centerであり、大学都市として有名なBolognaにあります。一昨年、W杯前にロベルト・バツジョが前十字靭帯再建術後七十七日で復帰したのは欧州では伝説的なエピソードとなっています。またボローニヤFCの選手理由は(後述)、シニョーリ、イルハン、中田、中村等多数のプロサッカー選手も利用しています。ここは、郊外の広大な敷地を利用して余裕をもって建てられており、中田の所属したボローニヤFCの公式練習場が隣接していました。但し手術室、入院設備などは設置されておらず、手術の場合はボローニヤ大学整形外科、また選手が住む近隣の病院へ紹介して施行されていました。長期リハビリの場合は、センター近くのホテルを紹介して、そこを拠点として通院できるようにシステムになっているようでした。施設内器具は温水トレーニング用プール、各種トレーニングマシンやエルゴメーター、バランストレーニング訓練器など近代的トレーニング設備が適量おかれていました。個々の治療機器は日本の物と殆ど変わりませんが、ここの特徴は、治療機器と設備の配置が集約的であること、選手個人に担当PTが付き、状況に応じたメニューを処方するマンツーマン治療を行っていることでした。

所長のDeia Viana氏は、スポーツリハビリテーション専門医ですが、現在は有能な経営者という雰囲気でした。一九八七年創設以来、この施設がイタリア国内で有名になり、多くの患者が集まるようになったのもこの所長の経営センスによるところが大きいと思われました。スタッフは医師(スポーツリハ医)四名とPT十六



フォロロマーノで

名で、ナース・放射線・栄養士等のスタッフは雇用しておらず、スポーツリハに完全に目的を絞った形の施設でした。患者は週に約一、〇〇〇人で、料金は一時間で六〇ユーロ（約七九〇〇円）とのことでした。

それにして、今回、Mariani教授の下で、一年間の手術研修を受け入れて頂き、学ばせてもらったことが何にもまして意義深かったと思っております。このイタリアで学んだ知見と人的ネットワークを活かし、今後の研究、治療に役立てて行ければと心を新たにしているところです。今後は、新に04Jリーグ後期より柏レイソルチームドクター団の一員として、また引き続き神奈川県サッカー協会医事委員会委員としてサッカーを中心としたスポーツ医療活動についていく予定です。

ラグビー部

五年 鈴山 寛人



西医体宿泊所「梅ノ木屋」

我々香川大学医学部ラグビー部は部員一九名、マネージャー七名の小さな部活ですが、週約三日の練習を通して精力的に活動しています。活動内容は一回三時間弱の練習が主体ですが月に一回くらいは試合も行っています。私たちは県リーグにも所属しているので県リーグの行われる時期である秋から冬にかけては社会人と試合を行っています。去年はBリーグで優勝という成績だったので今年はAリーグに昇格することになり厳しい試合が多くなるんじゃないかと考えています。その他にも四国学生リーグにも参

加しているので四国にある他大学のチームとも交流戦をやっています。七月の終わりから八月にかけては西日本医学部体育大会が行われますが、私たちはこの大会を最も重要な大会と考えているので毎年この大会に向けてコンディションを整えています。

毎年のことなのですが、ラグビーは十五人で一チームの競技なので部員確保に非常に苦労します。



西医体試合場である神鍋高原にて

今年は例年にもまして事態は深刻だったので一年生が五人も入ってくれたのでなんとか西医体に参加できるようなので少しほっとしています。

ラグビーという競技は認知度はそんなに低くないと思うのですが、具体的なルールや内容はあまり知られてないかもしれませぬ。一言でいうと心技体すべて必要なスポーツであるといった感じではないかと思っています。

又、今年からラグビー部では新しい取り組みも始まっています。去年の十月に香川医科大学と香川大学が統合されたことを受けてラグビー部同士も一緒に活動をしようじゃないかということになり毎週木曜日は本学のグラウンドで、土曜日は医学部のグラウンドで練習を行っています。部員同士とても仲がよく県リーグでも一緒にチームで出場したりしています。本学の学生と一緒にすることで仲間も増え、より充実したクラブ活動が行えるようになったので良かったと感じています。もちろんまだ完全に合併したわけではなく、練習を一緒に行ったり、試合を合同チームで出場したりといった具合です。

現在我々香川大学医学部ラグビー部は西医体に向けて練習を行っており、少しでも良い成績が残せるように日々頑張っていく



卒業記念集合写真（平成12年度版）

つもりです。もし時間がありましたらラグビー部の部室を覗いてみてはいかがでしょうか、きっと優しい部員が迎えてくれることだろうと思います。

三俣診療班

「北アルプスでの診療活動」

香川班リーダー

医学科三年・酒井 亮太

「山と言う、特殊環境での医療活動」・・・三俣診療班が行っている活動内容、その理念と現状、そして将来の展望を医学生らしく、熱く、そして、熱く語ってくれ、と事務の方に依頼されたわけですが、（自分としても書く気満々だったのですが）残念ながら、これを書いて十二時間後には北アルプスの奥地・三俣診療所を目指して、高松を旅立ってしまいます。解剖、組織、生理学などの、超難関のテストが終わって二日後、フラフラの体に鞭打ち、登山の準備そっちのけで書いています。そのため皆様に上手く三俣診療班が伝わるか心配ですが、「行くからには全てに全力を尽くす」と言う信念の下、書きたいと思います。

香川での三俣診療班の産声は実はごく最近です。元々三俣診療班は岡山大学医学部のサークルでした。標高三〇〇〇m級の山々が連なる、北アルプスの奥地・三俣（長野県、岐阜県、富山県）にまたがる三俣山荘で、毎年七月中旬から八月中旬にかけて診療所を開設し、長年、医療ボランティア活動を行ってきました。しかし、二〇〇〇年（平成十二年）、岡山大学医学部のカリキュラムの改編により、岡山大学の学生の七月中の活動が困難になってしまいました。



診療所にドクターは必須ですが、ドクターが円滑に、そして安全に医療を行うには、雑務をこなし、ドクターをサポートする学生も必要です。それでも二〇年以上、北アルプスに登り、三俣診療所で医療活動を行ってきた、香川医大第一外科臼杵講師(当時)のご尽力で二〇〇〇年第一班の三名の学生派遣を皮切りに、香川医大にも三俣診療班が生まれることとなったのです。

三俣診療所には患者さんがさまざまな疾患で来られます。中には山特有の疾患・高山病で来られる方もいて、その種類は多種多様で大変興味深いです。ドクターやナースが患者さんの診療を行う傍らで僕は学生としての自分の無力さをいつも痛感します。「もっと勉学に励まなければ。」正直、下界では思うことが少ないのですが、三俣診療班は僕に医学を学ぶ上でとても良い刺激を与えてくれます。学生自身は診療に直接かわかることはないですが、機材も薬品も少ない山の診療所で医療の原点というものを身近に、肌で感じる事が出来ます。将来、ドクターになっても多分味わうことのできない経験だと思えます。また、診療所は北アルプスの中で

も奥地中の奥地と言っても過言でなく、その景色は一際美しいです。黒部川の源流、三俣蓮華岳、雲の平のスイス庭園、付近一帯の最高峰・鷲羽岳(二、九二四m)そして鷲羽池など、本当に豊かな自然に囲まれています。今回の辛いテスト期間中、僕は何度も昨年の三俣診療所を思い出して勉強の合間の、ひと時の安らぎを得ることができました。

しかし、この順調に思われた香川での三俣診療班は現在、暗雲立ち始めています。それは香川大学との合併によるカリキュラムの変更です。今までは三学期制でしたので七月中旬には各学年テストも終わり、多くの人が三俣診療班に参加できました。しかし、前期後期の二学期制になった現在、新カリキュラムになる今の二年生以下は八月の頭までテストがあり、三俣診療班に全く参加できなくなります。つまり、岡山大学と同じ状況になるわけです。

今現在の状況では、香川班としての三俣診療班は廃部を迫られているに近く、何より、大事な七月中の三俣診療所の開設もままならなくなります。七月中旬は梅雨も明け、多くの登山者が北アルプスを訪れます。しかし、同時に怪我や事故が多いのもこの季節です。そのような大切な時期に診療所が開設できないということは、我々にとっても、そして登山者の方達にとっても非常に悲しい現実です。現在の新カリキュラムは医学教育的にも問題があると思います。今まではテストも年に三回あり、範囲も少なく、一つの内容を集中して、深く学ぶことが出来ました。しかし、今のカリキュラムでは年に二回しかテストがなく、範囲はとも膨大です。学生の負担になるばかりか、浅い勉学になりかねません。西医体との関係上、八月頭まで授業があるのは問題があるなど、多方面か



ら改革を訴える声が出されています。これを読んでいただいている皆様のお力添え・お声で、この現状を変えることは出来ないでしょうか？

三俣診療班を思う一人として、切に願っていることです。

最後に、三俣診療班の運営基金は診療所においてある募金箱と診療班OBの方の寄付金で成り立っています。これは薬剤や機材など診療所の運営費、管理費に使われます。山の診療所や三俣診療班の理念に賛同された方がほしい

らっしゃれば、下記のお問い合わせまで連絡をお待ちしています。また、毎年ドクター、ナースも非常に確保が困難で、見つからないときなどもあります。診療所にドクターがいなければ、せっかくの薬も、機材も無駄になってしまいます。これを読んで三俣診療班に興味を持たれた、もしくは参加したいと言っていただけのドクター、ナースの方は居られませんか？ご連絡・問い合わせを同じく下記の連絡先まで承っております。

酒井亮太 香川大学医学部医学科三年・三俣診療班香川班リーダー）
s02m031@stu.med.kagawa-u.ac.jp

統合初年度 キャンパスライフはどう変化？

平成16年度の医学部新生は、単科大学であった香川医科大学が香川大学医学部となって初の入学生である。統合後、新しい一学部として医学部生はどのようなキャンパスライフをスタートさせているのだろうか。本学学務部に伺ってみた。

まずは、カリキュラム・授業について、これまでとの大きな違いは、教養科目が本学で全学的に行われるということだろう。週5日間のうち、4日間はこれにあたり、残り1日の水曜日だけは医学部キャンパスでの授業がある。医学部での授業内容は、前期は医学概論、早期体験学習、後期は教養ゼミナール、21世紀の社会・環境と保健医療福祉であり、統合前と同様の医学部1年次用カリキュラムである。

本学で受講する教養科目は、健康・スポーツ科目、外国語科目（英語、ドイツ語）は医学部限定で、それを除いた科目は全学共通のものである。卒業要件にかなう科目を中心に、個人の選択に拠る。

旧香川大学の全学共通科目のシステムの延長上に、統合後は医学部が加わって運営されていると考えればわかりやすい。本学教務課では「科目の増加や英語関係で、クラス編成等を過渡期的に運営しているところもありますが、システムの大枠は以前と大きな変更はありません」と説明する。

キャンパスが離れているという点では同じ境遇にある農学部（三木町）工学部（林町）の1年生も、水曜日は各所属キャンパスに通っている。

医学部キャンパスがホームグラウンドとなるのは、専門科目が本格的にスタートする2年次からである。他学部も2年次からは独自のカリキュラムがスタートするので、幸町キャンパスに通う日は学部毎に違って来るようだ。

医学部で授業のある水曜日には、琴電高田駅からバスへと乗り継いだり、下宿から直接自転車で来たり、と各自でそれぞれ工夫して通学している。

ちなみに、1年次は幸町が中心のため、本年は三木町近辺に下宿する医学生は例年に比べて減っており、とりあえずの住まいは市内でもという傾向がみられるようである。

キャンパスが2つに分かれているため、物理的には多少不便に感じることもあるかもしれないが、「同じ教室で、他学部の学生と肩を並べて勉強ができるため、学生の中で連携が



幸町
（教育・法・経済）



林町
（工）



三木町
（医）



三木町
（農）

芽生えるかもしれません。」との本学教務課の言葉どおり、たくさんの学友に囲まれた学習環境によって、その交流の中から全学的で総合的な視野がこれまでもまして身につくことが期待できる。

また、卒業式や入学式を担当する本学総務係によれば、「卒業式や入学式は共に幸町キャンパス経済学部構内の大学講堂において行われます。平成16年度入学式は、既に全学合同で実施されました。卒業式は、平成17年3月24日に平成16年度卒業式が行われますが、全学部合同で実施される初めての卒業式となります。」ということである。

さらに、本学生活課によれば、サークル活動については、統合前と同様に、医学部と医学部以外で、別々のサークルとして活動しているが、ただし、どちらのサークルに加入しても問題ないそうである。大会参加も別々となる。医学部以外は、インカレ（四国地区大学総合体育大会）が、医学部については、西医体（西日本医科学生総合体育大会）が一番大きな大会である。

図書館については、学生証を提示すれば、どの学部の図書館でも利用できる。（統合によって使用対象が拡大し一般へも公開されている 詳しくは大学図書館ホームページを参照）

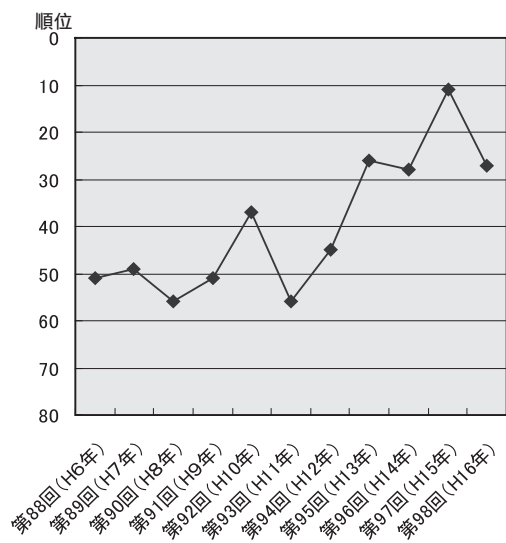
香川大学内の施設については、香川大学の学生であれば、学部に関係なく利用可能である。ただし、施設毎に利用の手続きが必要となる。医学部にも体育館、グラウンド、大学会館等があるので、医学部学生は医学部施設を使用することとなる。

第98回医師国家試験学校別ランキング

	学 校 名	総 数			新 卒			既 卒		
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
1	自治医科大学	97	97	100.0%	97	97	100.0%	0	0	0.00%
2	順天堂大学医学部	88	86	97.7%	86	84	97.7%	2	2	100.00%
3	防衛医科大学校	65	63	96.9%	65	63	96.9%	0	0	0.00%
4	東京医科歯科大学医学部	88	85	96.6%	86	85	98.8%	2	0	0.00%
5	群馬大学医学部	108	104	96.3%	104	102	98.1%	4	2	50.00%
6	三重大学医学部	106	102	96.2%	105	102	97.1%	1	0	0.00%
7	筑波大学医学専門学群	102	98	96.1%	97	93	95.9%	5	5	100.00%
8	山形大学医学部	95	91	95.8%	92	89	96.7%	3	2	66.70%
9	滋賀医科大学	116	111	95.7%	112	108	96.4%	4	3	75.00%
10	横浜市立大学医学部	65	62	95.4%	61	60	98.4%	4	2	50.00%
11	札幌医科大学	105	100	95.2%	101	98	97.0%	4	2	50.00%
11	名古屋市立大学医学部	83	79	95.2%	81	77	95.1%	2	2	100.00%
13	東京慈恵会医科大学	111	105	94.6%	107	103	96.3%	4	2	50.00%
14	福島県立医科大学	90	85	94.4%	85	81	95.3%	5	4	80.00%
15	昭和大学医学部	120	113	94.2%	110	108	98.2%	10	5	50.00%
16	慶応義塾大学医学部	102	96	94.1%	99	94	94.9%	3	2	66.70%
17	広島大学医学部	98	92	93.9%	91	89	97.8%	7	3	42.90%
18	岐阜大学医学部	81	76	93.8%	78	76	97.4%	3	0	0.00%
18	新潟大学医学部	96	90	93.8%	90	87	96.7%	6	3	50.00%
18	富山医科薬科大学	97	91	93.8%	90	85	94.4%	7	6	85.70%
21	東京大学医学部	105	98	93.3%	100	96	96.0%	5	2	40.00%
22	弘前大学医学部	103	96	93.2%	100	94	94.0%	3	2	66.70%
22	浜松医科大学	103	96	93.2%	93	91	97.8%	10	5	50.00%
22	名古屋大学医学部	103	96	93.2%	99	95	96.0%	4	1	25.00%
25	京都府立医科大学	112	104	92.9%	105	102	97.1%	7	2	28.60%
26	神戸大学医学部	110	102	92.7%	103	100	97.1%	7	2	28.60%
27	香川大学医学部	103	95	92.2%	98	92	93.9%	5	3	60.00%
27	宮崎大学医学部	103	95	92.2%	91	86	94.5%	12	9	75.00%
29	岡山大学医学部	103	94	91.3%	98	89	90.8%	5	5	100.00%
29	大阪大学医学部	104	95	91.3%	98	92	93.9%	6	3	50.00%
31	和歌山県立医科大学	57	52	91.2%	52	51	98.1%	5	1	20.00%
32	高知大学医学部	112	102	91.1%	101	96	95.0%	11	6	54.50%
33	金沢大学医学部	106	96	90.6%	91	86	94.5%	15	10	66.70%
34	日本医科大学	113	102	90.3%	103	96	93.2%	10	6	60.00%
35	産業医科大学	111	100	90.1%	100	94	94.0%	11	6	54.50%
35	大阪市立大学医学部	91	82	90.1%	87	80	92.0%	4	2	50.00%
37	北里大学医学部	115	103	89.6%	93	90	96.8%	22	13	59.10%
38	千葉大学医学部	114	102	89.5%	99	97	98.0%	15	5	33.30%
38	杏林大学医学部	105	94	89.5%	87	85	97.7%	18	9	50.00%
40	旭川医科大学	113	101	89.4%	108	98	90.7%	5	3	60.00%
40	福井大学医学部	104	93	89.4%	95	92	96.8%	9	1	11.10%
42	北海道大学医学部	112	100	89.3%	105	99	94.3%	7	1	14.30%
43	長崎大学医学部	93	83	89.2%	77	77	100.0%	16	6	37.50%
44	大阪医科大学	100	89	89.0%	90	84	93.3%	10	5	50.00%
45	徳島大学医学部	98	87	88.8%	89	82	92.1%	9	5	55.60%
46	大分大学医学部	95	84	88.4%	84	79	94.0%	11	5	45.50%
47	島根大学医学部	120	106	88.3%	103	97	94.2%	17	9	52.90%
48	山梨大学医学部	92	81	88.0%	80	75	93.8%	12	6	50.00%

48	埼玉医科大学	108	95	88.0%	98	93	94.9%	10	2	20.00%
50	東京医科大学	123	108	87.8%	116	104	89.7%	7	4	57.10%
51	奈良県立医科大学	106	93	87.7%	96	88	91.7%	10	5	50.00%
52	京都大学医学部	104	91	87.5%	93	89	95.7%	11	2	18.20%
53	近畿大学医学部	100	87	87.0%	84	81	96.4%	16	6	37.50%
54	東北大学医学部	99	86	86.9%	91	86	94.5%	8	0	0.00%
55	愛媛大学医学部	105	91	86.7%	94	85	90.4%	11	6	54.50%
56	山口大学医学部	111	96	86.5%	100	92	92.0%	11	4	36.40%
57	東邦大学医学部	109	94	86.2%	98	85	86.7%	11	9	81.80%
58	日本大学医学部	114	98	86.0%	101	94	93.1%	13	4	30.80%
58	九州大学医学部	114	98	86.0%	105	97	92.4%	9	1	11.10%
60	鹿児島大学医学部	128	110	85.9%	112	101	90.2%	16	9	56.30%
61	熊本大学医学部	120	103	85.8%	105	97	92.4%	15	6	40.00%
62	佐賀大学医学部	98	84	85.7%	89	79	88.8%	9	5	55.60%
63	東海大学医学部	123	105	85.4%	106	97	91.5%	17	8	47.10%
64	鳥取大学医学部	95	81	85.3%	79	73	92.4%	16	8	50.00%
65	秋田大学医学部	113	96	85.0%	100	90	90.0%	13	6	46.20%
66	関西医科大学	105	88	83.8%	93	83	89.2%	12	5	41.70%
67	東京女子医科大学	115	96	83.5%	97	88	90.7%	18	8	44.40%
68	福岡大学医学部	114	95	83.3%	99	91	91.9%	15	4	26.70%
69	聖マリアンナ医科大学	116	96	82.8%	104	91	87.5%	12	5	41.70%
70	藤田保健衛生大学医学部	121	100	82.6%	102	87	85.3%	19	13	68.40%
71	琉球大学医学部	120	99	82.5%	104	89	85.6%	16	10	62.50%
72	信州大学医学部	108	89	82.4%	94	82	87.2%	14	7	50.00%
73	岩手医科大学	88	72	81.8%	79	68	86.1%	9	4	44.40%
74	愛知医科大学	121	98	81.0%	106	91	85.8%	15	7	46.70%
75	川崎医科大学	112	89	79.5%	105	86	81.9%	7	3	42.90%
76	兵庫医科大学	112	88	78.6%	94	79	84.0%	18	9	50.00%
77	帝京大学医学部	101	78	77.2%	76	69	90.8%	25	9	36.00%
78	久留米大学医学部	118	90	76.3%	92	82	89.1%	26	8	30.80%
79	金沢医科大学	131	98	74.8%	111	92	82.9%	20	6	30.00%
80	獨協医科大学	123	91	74.0%	106	83	78.3%	17	8	47.10%
	認定及び予備試験	51	20	39.2%	25	9	36.0%	26	11	42.30%
	総 合 計	8,439	7,457	88.4%	7,620	7,077	92.9%	819	380	46.40%

香川大学医学部・過去10年間の変遷



事務局からのお知らせ

1、会費規定に次のとおり、『終生会員』制度が追加されました。「年会費を二十年分に相当する額を納入することをもって終生会員とする。」

具体的には、十年会費を納入いただいている会員の方は、次の会費納入の時期に、もう一度十年会費を納入いただければ、それで終生会員の資格を取得することになります。

また、毎年年会費を納入いただいている会員の方は、合計金額が二十年分で終生会員となります。

もちろん、十年会費と年会費の組み合わせでも構いません。終生会員の資格を取得されたと、以後は会費納入が不要となります。

今回も個人別に会費納入状況を同封していますので、ご確認いただき、今後とも会費納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。

年会費 五〇〇〇円

十年会費は（年会費五〇〇〇円×十年）×〇・八＝四〇〇〇〇円となり、納入忘れや毎年の納入の煩わしさもなく、しかも二割の減免特典となっていますので、是非推奨します。

2、個人基本データを同封しています。次号発行の名簿の基礎となりますので、記載内容をご確認の上、変更箇所をご連絡いただきますようお願いいたします。また、掲載を希望されない箇所

につきましても（ ）で括弧ご連絡をお願いします。FAX、メール、電話、直接郵送等いずれでも構いませんので、ご連絡ください。

変更のご連絡は、十一月末日までにお寄せください。

ご連絡がない場合は、記載内容をそのまま最新データとして名簿へ掲載させていただきますことをご了承下さい。

3、郵便局の名義変更を次の通り行いましたのでお知らせします。

香川医科大学同窓会 讃樹會

口座番号はこれまで通りですので、これまでお送りしている払込取扱票もそのままご利用いただけます。

4、同窓会の貴重な情報誌である会報に、会員のみなさんからのご寄稿をお待ちしています。お気軽にお寄せください。

編集後記

この同窓会報二十八号が、皆様のお手元に届くのは秋の気配が感じられるようになったころでしょうか。この度、執行部が交代して初めての会報が漸く発行できたことを大変嬉しく思います。ご寄稿いただいた先生方をはじめ、各企画にご協力いただいた方々のおかげと、心より感謝申し上げます。

台風が東から西に進んだり、欧州では洪水とワイルドファイヤー、北アフリカではイナゴが大発生して植物を食い尽くしたり、南アジアでは洪水がおこったり、エベレストが低くなったりと、不気味な異変が報道される中、また、本号と同じ、第二十八回目の近代オリンピック、アテネオリンピックが開催されるこの夏に、私は初めて同窓会報の編集を担当させていただきました編集委員長の大森浩二（昭和六十一年卒）です。カリフォルニア大学に留学していた三年間を除いて、ほぼ、ずっと、母校に棲んでおり、循環器内科を担当しています。皆様の第二の故郷、香川県三木町のここにおいて、全国・世界を股にかけて活躍されている同窓会員の皆様からの情報を収集し、これをまた、世界に拡がった会員の一人一人にお届けするという仕事は、大変やりがいのあることと、実際、今回編集をさせていただきました、実感いたしました。

本号は、執行部の所信表明に始まり、懐かしい根木先生、ドクターヘリでの活躍のお写真も凜々しい小倉先生からのお言葉と、好評の教授の横顔シリーズもシリーズ3を掲載しました。さらに、旧香川大学との統合を経て今年四月からの独立行政法人化、そして、新たな卒業後臨床研修制度の開始など、地球環境に負けないぐらゐの激変に際し、同窓会総会で大学トップが語って下さった学長

講演を丸ごと掲載させていただいたほか、新研修制度スタートにあたってと題する特集を組み、石田俊彦卒業後臨床研修センター長に、新制度開始にあたっての心構えなどについて御執筆いただき、また附属病院科長・同窓会・研修医の三者懇親会について安岐康晴理事長に報告いただきました。さらに、旧香川大学幸町キャンパスで大半を過ごす一年生の様子など、この時期にふさわしい内容を盛り込みました。今後、数回は、この変革を経て諸事が安定してゆく過程をつぶさに報告できればと思います。

さて、この激動の中にあつて、同窓生の活躍ぶりには大変励まされます。大阪での循環器科勤務を経て、在ポランド大使館で医務官をされている伊東達夫先生（平成二年卒）、サッカー選手の健康管理をして、本場イタリアで修業された鈴木英一先生（平成二年卒）、同窓会留学助成金を獲得されニューヨークに留学中の浅井竜彦先生（平成八年卒）からのお便りはとても元氣付けられます。また、このたび、公募により讃樹會のロゴマークが決定されました。みんなの原点、この讃岐の丘、三木の地が強く意識されたものです。三木町の町の木、メタセコイヤが三本です。

この号を完成させるにあたり、大変貴重な時間を割いていただき、誠意あふれる記事を御執筆いただいた先生方と、編集委員長として初めての私を全面的に助けてくれた讃樹會事務局の有能な秘書嬢に感謝しつつ、編集後記とさせていただきます。

香川大学医学部医学科同窓会 編集委員長

大森 浩二

香川大学医学部医学科同窓会讃樹會行き

(FAX : 087 - 840 - 2291)

異 動 連 絡 票

該当するものに○をお付けください	卒業年 $\frac{S}{H}$ 年 (第 期)	
	開業医 / 産業医 / 勤務医 / 研修医 その他 ()	
ふりがな	所属等 (卒業時の入局先)	
氏 名 (旧姓・旧名)	()	
現住所	〒	
	TEL	FAX
勤務先	名称	部署
		役職
	〒	
	TEL	FAX
電子メール アドレス		
恒久的住所 (実家等連絡先)	〒 (氏名・続柄)	
	TEL	FAX
連絡事項及びメッセージ		

お願い

名簿発刊時に記載不許可の項目は で囲んで下さい。

※ 印は記載しないで下さい。

※ 連絡日 年 月 日

※ 処理日 年 月 日

